

幼の教育

第三十八卷 五月號 第五號



東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可

昭和十三年四月十三日印刷納本

定價三十五錢

廣島文理科
大學教授

文學博士久保良英著

菊判洋綴紙數三百頁
定價金二圓八十錢

送斜廿一錢

新刊

兒童の精神構造と指導

本書は心理學上より兒童の精神構造を科學的に解剖し、體係を立てて以て兒童教養の根本義を確立せるものである。兒童の教養は次期の國家の消長を決するものであるが、特に現今我國は非常の時局に立ち何事にも國民總和の力を以て當るべきの秋である。著者はこの大に感ずる所あつて、世の教育家父兄の爲に特に本書を著したのだ。先生は我邦心理學界の泰斗で、本書は其深奥なる學問と豐富なる經驗との完全なる融合である。左に其大綱を舉ぐれば……一幼兒の精神構造 二玩具の選び方 三言語と文字の交友についての注意 五問題の子供の導き方 六家庭に於ける知育 七美的情操陶冶 八道徳教育 九宗教教育……一般教育家は勿論一般識者の必讀を望む。

東京高等師範學校教授

文學博士

小野島右左雄著

心理學要説

菊判紙數四百頁
定價金二圓十五錢
送料十二錢

教育の基礎となる
新しい心理學説

文檢要書

心理學の問題は嘗ての機械説より生氣説、準機械説等幾變遷を経てゐるが、體制に於て今や其全面に涉り百八十度の大回轉を示してゐる。之は人間科學の諸領域に於て重大なる進歩と新らしい分野の開拓とを意味するものである。斯様な時期に當つて著者は本書に於て單なる紹介や學説の羅列をさけ、専ら見方を教へ考へる論を以てし、傍諸家の説にふれ一方其内省よりして東洋思想の色彩も又濃厚である。神教育を現代の心理學の成果に基づいて叙説しようとする試みたと本書の卷頭に述べたが、此の意匠に於て又一般知識人の必讀を俟つものである。

振替電話
東京三三三
八三三
四二二
七二五番

店書館文中

發行所 東京市牛込區
辨天町一七四

奈街三郎原作 前島とも畫

第一輯

タンポポの三つの種子

版 (38×26) cm 大
一組十六枚
寫眞入り説明付
美麗四色刷
ボール箱入り

幼稚園・託児所の幼児たちのために、明るい、健康な、ためになる紙芝居を！

紙芝居、紙芝居とせがむ幼児たちのために、研究會が苦心研究の幼児紙芝居を御奨めいたします。明るい、健康な繪、正しい内容、幼児童話作家、童畫家、保姆協力の作品です。風に飛ばされたタンポポの三つの種子が、農家の屋根や、お邸の庭や、幼稚園の隅に降されます。自然觀察を通して昂められて行く幼児の知性の糧に好箇の作品です。

第四輯	第三輯	第二輯
前島とも畫	塚原健二 武畫	川崎大治 作 宇田川種治 畫
榎本楠郎 作 仲 な ほ り	迷子になつたボン	お猿さんの赤い毬
各輯定價壹圓 (送料十四錢) 四輯前金申込特價三圓六拾錢		

保育問題研究

月刊
錢五十

研究室の學者と兒童文化關係の専門家と子供の實際保育に當る保姆とが、幼稚園・託児所といふ幼児の社會的生活場面に起る諸問題の解決・研究のため結集してゐる眞摯な團體「保育問題研究會」の機關誌です。保姆・母親に、子供の生活を見る廣く深い目を與へ、子供等の知性を磨き逞しい生活力を育んでやる爲の力をつけることを目的としてゐます。

保育問題研究會

東京・麹町・法政大學
兒童研究會所內

三版

日本幼稚園協會編 幼稚園談話集

菊版三五〇頁
定價金壹圓五拾錢

郵税
市内 金六錢
地方・北海道 金六錢
臺灣・樺太 金拾五錢
朝鮮・滿洲 金拾五錢

四版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 系統的保育案の實際

一保育案の實際は幼稚園必須の資料
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

定價 金壹圓
送料 金六錢
代金引換は
御斷り申上候

月刊

幼児の教育

幼児教育に關する忠實なる月刊雜誌として、眞に全國幼稚園、託兒所の方々のものたらんことを切望してゐます。

一ヶ月 金參拾五錢
送料 金一錢
一ケ年 金四圓貳拾錢
送料 共

發行所

日本幼稚園協會

○定價及郵税を添へ本會宛直接御註文下さい。

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替東京一七二六六番



第 三 十 八 卷 幼 兒 教 育 第 五 號

— (次 目) —

口 繪

卷 頭 (若 葉) 倉 橋 惣 三 (一)

保 育 所 の 使 命 と 其 の 本 領 藤 野 井 行 仁 (二)

農 繁 期 託 兒 所 の 經 營 荒 井 庄 次 郎 (六)

母 子 保 護 法 に 就 て 高 島 巖 (三)

フ レ ー ベ ル 賞 入 選 手 技

金 魚 鉢 ・ 臺 小 田 桐 た か 子 (元)

兵 隊 さ ん 三 浦 秀 (三)

木 の 葉 應 用 貼 紙 池 野 倍 子 (三)

構 横 瀬 末 子 (三)

五 月 の 一 週 間 S K (四)

四 月 の 一 週 間 杉 山 米 子 (四)

池 邊 子 供 町 田 行 子 (五)

ナ チ ス 保 姆 養 成 の 教 案 多 田 鐵 雄 (五)

新刊

倉橋惣三作詞
小松耕輔作曲 戸倉ハル振付
日本の旗 日の丸の旗

色刷表紙四六倍判音譜及び振付
説明
定價 送料共一冊 金參拾錢
前金(振替或は參錢郵券)を添へ
冊數及び送先き明記申込次第直
に送本す

此の時局、幼兒兒童に何を唱はせませうか。どんな遊戲をさせませうか。本會は、今日此の新しい唱歌と遊
戲とを全國の幼兒兒童の前に贈り得ることを最も欣快とするのであります。願はくは、皆さまのお力添へを
俟つて、幼稚園に、學校に、家庭に、街頭に、津々浦々に、此の唱歌遊戲の流布を見るに至り得んことを。
之れが本會の遠慮のない望みであります。

尙、此の刊行によつて得た金額は、國防費に獻金致したく、既に金百圓を獻金致しました。どうぞ此の趣旨
にも御共鳴下さつて、尙ほ一冊でも多くお購求下さい。又廣くお勧め願ひます。一冊の御購買は即ち同時に
國防獻金となるのであります。若し各幼稚園が此の意味に基いて、取りまごめて御註文下さるようのことま
でして頂ければ、此の上ない幸であります。そのために表紙も美しい色刷りの家庭向きにして置きました。
右本會の二つの希望を御協賛願ひます。

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替口座東京一七二六六番



幼 児 の 教 育

昭和三十三年五月

若 葉

日本中が若葉に映えてゐる。

「富士一つ埋み残して青葉かな。」

野さいふ野、森さいふ森、山さいふ山、園さいふ園。それはみんな青葉のかたまりである。その緑濃いかたまりをつなぎあはせて、若葉の日本が、まぶしいやうに潑刺さして目の前に浮ぶ。

幼稚園は子さものかたまりである。つい此の四月に入園して来た子さも達をつぎへて、宛然たる若葉のかたまりである。その新鮮さ、その清浄さ、その潑刺さは、或は樹々の若葉に優つてもゐよう。その幼稚園をつなぎあはせて、幼児の日本が、まぶしいやうに潑刺さして目の前に浮ぶ。

日本中が子さもに映えてゐる。

保育所の使命と其の本領

猿江善隣館長 藤野井行仁

編輯者から特に託児所に關して所見を書けとの御申つけであるが、この問題は既に多數の先輩斯業研究者に依つて論述されてゐるので此處に事あらためて申上げることも考へつかないが、たゞ現場に居る者として一二の雜見を記して諸賢の御批判を願つて責をふせぐことをする。

戦近保育事業は長足の進歩をなし、都會は申すまでもなく、農村には農繁期保育所の經營を見るに至り、愈々兒童保護の重大性が提唱され、各方面に保育所が施設さるゝに至つたことは實に喜ばしいことで、ここに戦時體制下に於ける兒童保護の最も重要性あることは今更言をまたぬところである。然し、よく其の事業のもつ本領と使命の重大さを認知せざれば單に施設の数が増加しても格別の意義をなさぬであらう、こゝに深い思量と考察を以て之が運用をはかり、而して他の社會施設と共に體系的に整備され、有機的に健全な發達を遂げしめなければならぬ。

凡そ保育所は社會施設として行はれる事業なることを明瞭に意識し、その使命と本領に向つて所期の目的を達せねばならぬ、この兒童保護事業が社會問題の中でも極めて重要な事件として取扱はれることは、單に兒童が本來それ自身社會的弱者であり自己を主張し、自己を護る力のない弱きものであるといふ見地からばかりでなく、今日の幼き生命がやがて將來の國家社會の擔當者であり、理想社會の實現には、次代に來るべき社會に俟たねばならぬといふ意味合ひからして兒童保護事業が社會問題の對象となるべき事件の内容を持つことは當然のことであるが、尙更に一步進んで、此の兒童保護

事業が社會問題の中でも、勞働問題や社會事業の分野に於て、重要な事件として取扱はれ來つたことを見逃してはならない。即ち幼稚園と云ふ名稱の下に取扱はれる一般性の場合でなく、保育所の名稱の下に取扱はれて來る場合に於ける兒童保護事業は、普通呼ばれる兒童保護とか兒童愛護とかの言葉の中でも、一層重要な意義があることは多言を要するまでもないのである。即ち保育所事業として取扱はれる場合は一般性の幼稚園事業の範圍外に事業そのものが持つ根本的な事件を没却することは出来ない。即ち幼兒を通じての家庭の保護指導といふ問題に無關心であることは出来ない。若し保育所の運営に於て幼兒を通じての家庭に對する保護指導の役目が織り込まれてなかつたならば、保育所の存在の意義は大方失はれたと云つてもよい。こゝに幼稚園經營と保育所經營の上に於て社會問題としての重要性の相違があるのである。然し、幼稚園と保育所とを區別して考へることは間違ひであり本質的に考へて差別すべきでなく、同一に取扱はうとする向もあるが、それは保育所を單に、保育事業の立場からのみ見た取扱ひ方で、施設そのものゝ出發の動機を見のがし、保育者といふ立場から兒童の世界ばかりに重心を置いて考へた一方的見方をした結果に外ならないのである。保育所が、家庭經濟の補助とか、勞働能率の増進とか云ふ經濟的な事件を對照として施設せられた根本的動機を考へる場合、之を一般性の幼稚園と同一に取扱ふことは無理があらう。幼稚園は保護者が自ら進んで、幼兒に對して保育を受けさせやうとすることに出發したもので積極的であるが、保育所は所謂家庭の生活保持のために、手足纏ひとなる子供を預けて勞務に従事し、少しでも生計狀態に餘裕を得やうとする消極的なものである。斯様に幼稚園と保育所とはその託兒するこの動機に於て相違してゐる、即ち再應單的に云へば幼稚園は兒童そのものが事業の對象であり、保育所は家庭全體が事業の對象であるといふことが出来るのではあるまいか。但し茲に注意を忘れてはならぬことは保育者即ち保育従事者の立場から考へた觀方はさうかといふことである、これは上述の如き單的な所見は事業當事者と保護者の立場から見た場合の所論であつて、保育

者そのものゝ立場からすればそれが假令幼稚園の幼児であらうと、保育所の幼児であらうと、そこに保育上に於ての相違のあらう筈はないのである、一應相違のあるを申したのは、保育所に於ける保育従事者には幼児を通じての家庭といふ問題が、幼稚園の保育従事者よりも一層重要な要件となつてゐることを失念しないために力説したのである。

斯様に觀て來た時保育所事業經營には、一面保育事業といふ内容を持つ外に防貧的保護事業といふ重大な意義が含まれてゐる。茲に於て保育所の事業對象となるべき家庭の選擇は、その事業の效否を決する條件となるのであるから、保育所の經營及従事者にまつては保育以外に當然社會調査といふことが肝要になつて來るのである。社會調査の結果、得られた事業對象者に對しては恒に保護を指導する必要があるばかりでなしに、保育所を中心とした地區の動きに深き關係を持たなければならぬのである。

勿論家庭の子供のための幸福を増進し、子供のための社會的要件を改善し、家庭經濟の向上につくめることは保育所のみが受持たねばならぬなごと思ひ上ることは慎むべきことで、それを特に専門とする所の社會事業も存在するわけではあるが、これ等のことを實行して行く上に於ては保育所が持つ所の特別な便宜があるのである。保育所は保育そのものの以外に、各種の仕事が派出するので、否寧ろ生れて來る様に努力することが保育所の機能の充實を圖ることになる、これは今日、保育所を稱せられ、隣保館を唱へられ、方面館を名づけられる施設の多くは、保育事業を中心として、其の地區に於ける環境の要求に應じて生れた事實に照しても明かである。

即ち保育所は家庭に對して、他の事業の如く單に外部から警告を發し、注意を喚起するといふのとは違つて、其の子供を中心として現に親子協力の結付きにあり、其の子を通じて親の心に入り込んでゐるから漫然と抽象的な一般的な注意條項をならべるのではなくて、其の子に就いて個別的な具體的な注意がなされるのである。だから保育所の保母達程其の子に就いて實際的な懇な且つ切實な關係を以て子供のために親子語れる人は無いと思ふ、即ち保育所の保母は所謂教育的幼稚園

の場合と違つて、何處までも親らしい世話のやり方も積極的に出来、母親に對する教育力も持ち得るのである。斯の如く家庭に即應した交渉が出来るだけに十分の思慮を以て、家庭連絡のために、家庭訪問なり生活向上に對する諸種の會合や人事衛生等にまで關心を持たしめ、兒童の愛を通じて極めて自然に連絡することにあくまで細心の注意を怠つてはならぬ。

斯の如く保育所の使命や本領が納得されたとしてもかゝる使命達成の第一要件として我々はそれに従事する人のことを充分考へなければならぬ。それは畢竟保育の第一線に立つ保姆に適當なるよき人を得るや否やになることである。如何に立派な設備が出来てゐても此の一事が手ぬかりであること、保育所は何等の効果をも現出することが出来ない。保育所の保姆は家庭に代りて絶對的の世話をするものであつて、この位複雑にして勢力のかゝる仕事はない。殊に幼い子供、羸弱なる子供の取扱ひになることの折れることが想像以上である、大便小便の世話は勿論頭の腫物等に至るまで、健氣に之を手當せねばならぬ、如何なる面倒なことも厭はず、よく困難に堪へ偏へに兒童のよくなることをもつて、其父母と共に喜び、心中無上の喜びとするものでなければならぬ、現時の各種の事業が型は一通り整つても、其處に人を得られぬためにつまづきの多きを見る、保育所に於ても其の感を深くするのである。特に戦時下にある保育所の使命は平時以上に重大さを持つたされる時、保育所に於ける給食の問題、健康相談の問題、家庭調査の問題、人事相談の問題、母姉會の問題等々に思ひを致す時一層人的要素の充實が切實になつてくる、吾人現業に居る者の三思反省は勿論、保姆養成機關の當事者、斯業に關係を持つ人士の特別な考慮を願ひたいものである。本館に於ける家庭調査、人事相談、給食實施の状況等につき紹介し諸賢の御教導御批判を願ひたいのであるが、紙数の制限もあるので、これを他日にゆづることにするが、これ等の實施現況につき苦慮致し居る點もあり、御指導を仰ぎたき數々もあるので、各位御閑暇の際は是非御來館下され——御來館下さる場合は市電住吉町一丁目停留所下車北百米で至極便利な處です——地域の状況と對比し、實際について御教示下さらんことを切願するにも各位の示唆により斯業に一段と精進致したいと念願しつつ、擱筆する。

農繁期託兒所の經營

荒井庄次郎

一、農繁期託兒所の普及發達

我が國の農繁期託兒所は明治二十三年鳥取縣氣高郡美穗村に於て開設したのが最初である。按て其の開設の動機は美穗村の農民は遠耕を稱して、一里餘も距りたる田圃に耕作に行くので乳兒ならざる幼兒は止むなく家に残して乳兒丈を背負ひ行く。而して家庭に残されし幼兒は、兩親の監督なきがために喧嘩する者あり、怪我する者あり、又溝に落ちたる者あり、無暗矢鱈に食ふ者ありと云ふ風で、子供の風儀衛生上宜しからざるのみならず、親として第一可愛想であり又自分もして安心して仕事先で働く事が出来ぬ。所で此の村の寛雄平と云ふ人が此の哀れな實情を見るに忍びずして、早速取残された幼兒を村の青年夜學所に收容保育を試みたが、男の手のみでは甚だ不充分の感を懷き、村の庵住の尼さんに相談して曰く『庵住さんは子供を育てた事はなからうけれども男子よりは宜しかる可し、村への奉公の氣で子供の世話を頼む。唯喧嘩したり怪我をさへなさしめざれば良し』と云ひしに庵住さんは之を快諾し農繁期中の世話をなせりと。

是が今日より見れば農繁期託兒所とも稱すべきものである、而して明治四十三年には岡山縣兒島郡の共同組合にて開設し、大正五年には三重縣三重郡神前村の洗心保育園にて開設せられ今日に及んで居るが、託兒所としての體系を整へて設置されたものゝ最初のもの云へやう。漸次全國に普及發達し、大正十五年には百三十八ヶ所に増加し、昭和年間に入つて急激な増加を見、昭和五年には新設置に五百三十六ヶ所に上つて、在來を合せて二千五百十九ヶ所を數ふるに至り、昭

和八年七月には六千百五十餘ヶ所、昭和十二年度に於ては推定實に一萬ヶ所と稱せらるゝ盛況を見るに至つた。

二、農繁期託児所の使命

農繁期託児所は田植の時蒔入時養蠶期等所謂農繁期に際して、親等が充分仕事に従事する事が出来ると同時に子供を衛生上徳育上に遺憾のない様に、母親に代つて保育をする社會的施設である。従つて農繁期託児所には三つの大きな使命がある。

(1) 子供を預つて子供の保育に要する母親の勞力を仕事の方面に振向ける結果、母親は専心仕事に従事する事が出来て自然仕事の能率が上る。

(2) 忙しい時には自然子供のお守がおろそかになるが、母親に代つて完全に保育する爲衛生上徳育上面白からざる結果を子供の上にもたらず事を防止する事が出来る。

(3) 託児所に於てなされる保育の實際を通じ、或は幼児の家庭との聯絡に依りて、幼児保育上考慮すべき諸點を保護者に感得せしめ以て家庭に於ける幼児保育の改造發展を期するに在る。

三、農繁期託児所の保育

(1) 子供の自然を其の儘に

子供は其の家に居り家の近くの野原にゐるに同じやうな平常の氣持で、即ち顔に泥の付いた儘手に泥の付いた儘握飯の食ひかけの儘來るかも知れない。それでよいのである許りでなくさういふ具合でなければならぬのである。唯に形の上計りでなく、氣持に於ても託児所に來たから云つて改まつた氣持になる必要はないのである、何處までも子供の自然のまゝであつて欲しいのである。

(2) 場所其の儘を利用して

ありのまゝの場所ありのまゝの設備にするから云つて其の儘に放任して置く云ふのではない、何處までもそれを利用して行く積極的な心懸けが必要である、農村には都會と違つて子供を喜ばせ、子供を保育する事の出来る澤山な自然物がある、草の葉木の實それこそほんきに尊い自然の恩物がある、而し農村の子供は都會の子供の様にさう云ふ物を珍らしがりも嬉しがりもしないが、それ等の自然物を如何に面白く變化の多い玩具に利用し得るか云ふ事は導き方に依つて新しい興味も加へられて來るのであつて、この自然物利用の遊び方に就いて豊富な知識が準備されてゐたいものである。

(3) 幼児の心持ちを汲んで

心持ちを汲むには先づその心持を理解してやるこゝが第一であるが理解してやるだけでは足りない、幼児の心持の中にあるそれ／＼の欲求を迎へて、それを満してやり満足させてやる様にしなければならぬ。

幼児は歌ひたがつてゐる其處に唱歌がある、幼児は踊りたがつてゐるそこに遊戲がある、幼児は聴きたがつてゐるそこにお話がある、幼児は描きたがつてゐるそこに圖畫がある、又これら以上に幼児は何ものかを作りたがつてゐる其處に積木なり色紙なり種々なる作業がある、何れも幼児の心の欲求に向つてそれ／＼の満足を與へるのである。

四、農繁期託児所の保母

(1) 保母の地位

農繁期託児所の保母は、各家庭の母姉に代つて子供を保育する重大な任務を有するものであるから、茲に託児所の必要を感じても、此の保母を得られなかつたなら開所するこゝが出来ぬ。又幸に保母を得られたにしても適任者でなか

つたならば託児所の成績を擧ぐることは出来ない。誠に保母は託児所には重要な地位にあるので、保母を地元にするのは本施設の將來に重大なる影響があるのである。

(2) 保母の資格

農繁期託児所の保母は幼稚園や一般託児所の保母と異り、一時的の保母であるから、公認保母の資格を有するとか保育に堪能の腕がなければならぬと云ふのではない。

一、子供の本性を知り個性を尊重する人

一、子供を平等に愛する人

一、快活圓滿なる人

一、子供と同じ気分になつて遊ぶ人

一、子供に忠實なる人

一、子供の手本となる人

換言すれば事業に興味を持ち親切で子供に奉仕的に働く人であれば良い。初めから適任者はないが、講習を受けたり見學したり又實地に二三年保育の任に當るうちに自然の資格が備はるものである。そこで特に注意を要するのは、婦人はさもするに隣人や親戚の子供や愛くるしい顔付をしてゐる子供又は資産家の子供を偏愛する缺點がある、是は必ず平等にせねば託児をして僻ませる基を作る事となるから注意せねばならぬ。

(3) 保母の服裝

服裝は極めて質素で木綿の洗直し位の程度が良い。其の理由としては

一、保姆の服裝が美しいと父兄は自分の子供の服裝の惡しきを叱ちて入所を遠慮する様になる。

一、保姆が美服を纏ふて居ては到底泥まみれになつたり大小便によごれた子供を親切に抱き舉げて世話する事は不能な事である。

(4) 保姆一人にて世話する児童數

幼稚園や一般託児所と違つて農繁期の託児所は短期間の開設であるから、初から終まで訓練の出來ざる子供もあり、保育時間は日の出から日没までであるから長時間の勤務である。従つて多數の児童を取扱ふことは出來ぬ、従つて保姆一人宛擔當數は乳兒にありては約五人まで、幼兒にありては約二十人迄を可とされてゐる。

五、農繁期託児所の經營主體

農繁期託児所の經營主體は誰でも宜いが、之を理解し之に興味を有する者ならば尙更よい。尤も初には理解も趣味もない者でも、一二年主體者となつて見るに自然の間に趣味の出來る事も其の例は少くない。尙誰が主體となるかについては其の町村部落の事情によつて異なるので、一概に誰が主體となるが一番よいと云ふ事は出來ぬ。換言すれば其の地方に適するのが一番よい譯であるが、市町村經營の場合は、成るべく各種團體私人に施設を委託するを可とす。今其の適切なる團體を擧げると、町村、小學校、農會、婦人會、寺院、神社、女子青年團、社會事業團體其の他篤志者等である。

六、農繁期託児所の受託児童の年齢

農繁期託児所は、常設託児所と同じく大體離乳期即二、三歳から、學齡前六、七歳の幼兒中三歳以上の児童を取扱ふ者が最も多く、四歳以上を取扱ふ者に次ぎ、二歳以上を取扱ふ順となつてゐる。而し農繁期に於ける農家の勞作を少しでも手助けると云ふ目的に副ふがためには、力めて手數のかゝる乳兒を受託すべきであるが、此の乳兒を取扱ふ者の比較的

少いのは遺憾である。

尙右の中には學齡兒童であつても、低學年にして保育の要ある者即十歳未満の兒童を受託する所、五歳乃至十歳の兒童を取扱ふ所、六歳乃至七歳の兒童を取扱ふ所等がある。

七、農繁期託兒所の開設期間

農繁期託兒所開設の期間は、農繁期が何時から何時迄云ふ事は結局其の地方々々の事情によるので、一週間二週間一ヶ月に渉る所もあらうと思ふ。従つて開設期間も之に相當した期間を適當に定めるより外はないと思ふが、一ヶ年を通じて最も多忙な時期に一回のみ開設するものが最も多く、短期間三日間から最長期間十ヶ月に及ぶものがあるが、最も多いのは二週間三週間のもので、初夏に開設するもの最も多く、秋季及春季に行はる。

八、農繁期託兒所の開設

農繁期託兒所の開設地は勿論概ね農漁村であるが、近時町に處在するもの市内に開設されるものもある、其の設置すべき場所を考慮することは最も大切な事である。其の地區の狀況に依つて一概に決定的な事は云はれないが、先づ左の諸點が重要な條件として考慮されなければならないと思ふ。

(1) 集るに便利なところ

(2) 危険の伴はないところ

(3) 衛生上風紀上害のないところ

以上の如き條件を比較的具備してゐるものは寺院、神社、小學校、公會堂及篤志民家等であらう。尙集合の區域は、最大限十町以内、勿論これまでもその道路の實狀に依つて考慮されなければならぬが、五六町以内は最も適當なる距離であ

らう。即ち農村に於ける状態からするならば、一部落一ヶ所は極めて適當なるものである。

九、農繁期託兒所の受託時間

農繁期託兒所の受託時間は、農繁期に於ける農家の人々の働く時間に依つて決定すべきもので、従つて各地方の事情に依つて異なるが、全國的に日の出より日没までをいふ標準になつてゐる。最近幼稚園託兒所等の普及發達に伴つて、地方の實狀を無視して時間を極度に短縮して居る向もあるが經營者は此の點特に心して欲しいと思ふ。

保育時間割(日常の行事)

順序	事項	着手時間	所要時間	備考
1、	自由遊洗足洗手	登所ヨリ		
2、	朝禮唱歌	午前八時	一〇分	
3、	沈黙	同 八時一〇分	三分	
4、	唱歌お話	同 八時一三分	一七分	
5、	點檢	同 八時三〇分	三〇分	
6、	間食	同 九時	三〇分	
7、	遊戲手技	同 九時三〇分	一時間	
8、	自由遊	同 一〇時三〇分	一時間三〇分	此ノ邊デ午前ニ於ケル間食ヲ給スル向ガ多イ
9、	晝食	正午	一時間	
10、	自由遊	午後一時	一時間三〇分	晝食後午睡ヲ適時行フ向ガ多イ

11、保育	同	二時三〇分	三〇分
12、間食	同	三時	四〇分
13、自由遊戲	同	三時四〇分	二時間
14、唱歌 退所準備	同	五時四〇分	二〇分
15、退所	同	六時	

備考 食事、間食ノ前ニハ必ず手ヲ洗ハセルコト

(日中の行事)

一、登所 母親に連れられたり、友達と一所に或は兄弟に連れられて登所した幼児は、其の所持品を所定の場所に置かせた上遊園で遊ばせる。この時こそ心から保姆と兒童との融合する、絶好の機會で、一日中最も有意義な尊い時である。『先生お早う』『A子ちやんお早うお元氣で來ましたね』その會話は、先生は私のものであり、子供は私のものであるといふ主觀を客觀に取入れた統合の出現である。認められた子供の歡喜は先生の歡喜であり、この握手こそは一日を幸福に導く要訣である。かくて迎へられた子供は幸福に光る。そして遊園に出て來た時、前から砂場の遊具等の整理をしてゐる他の先生が『A子ちやんお早う、先生のお手傳してね』と言つて何か軽い手傳をさせられたとするならば、子供は手傳ふことによつて無上の光榮を感じるであらう。いつも子供より先生は一步先に出て待受け、子供の自發活動を旺盛に導く可く手招きで迎へねばならぬ。かくてこそ母親は安堵の胸を撫で、野良に急ぎ得るのである。さもなく兒童が出揃ふまで自由に遊ばせるのである。

二、朝の挨拶 兒童が出揃つた頃、一同を集め盥で足を洗はせバケツで手を洗はせ保育室に入れる。經驗が出來たら樂

器に合はせて行進し所定の位置につかせるのもよいであらう。

出來得ることなら、集合行進停止著席敬禮等總べて團體的の取扱は樂器を使ふのがよい。

入場し終つたら神様なり佛様に向つて著席し、所長さんか主任保母さんは前方に座して禮拜し、それを子供に模倣させる。他の先生方は幼兒の側から後方で禮拜する。尊いものには必ず禮をするものであること云ふことを培ふのは此の一瞬時である。それから保母と兒童との團體的挨拶を交換する。

三、沈黙 朝の挨拶が済んだら一、二分間を限度として端座瞑目させる。喧噪そのものゝ生活者をして行はしめるこの靜止の一、二分間は、實に有意義な時間である。所長さんなり主任保母さんが誰か一人、兒童に向つて靜座して『お目々をつむつて』の模範を示し、他の者は兒童の後方にあつて靜座し、此の間靜かな音律を漂はせることは意義を深めるものである。

談話か作業に着手させる前、幼兒の氣分を整する爲めにこの方法を用ふれば常に效果がある。

四、點檢 長くなるに兒童は苦痛を訴へ始めるから組別でも一所でも結構であるが保母先生が出席調査を行ふ、出席簿に書かれてある通り正確に名を呼稱してやる。此場合お返事の有否を確めてやり、子供をして『認められる喜び』を感受させてやらねばならぬ。此の場合、保育者は子供の着装手足の清否手拭の有否等の着眼は勿論朝の朝食睡眠不足の子供を識別するだけの目がほしく之に伴ふ對策が講ぜられねばならぬ。

五、晝食 兒童が遊園で自由遊びをしてゐる間に適當な室に食卓を出して準備を終へ、所定の時間には手を洗つて食卓を圍むことが出来るやうに導くのである。

家庭の經濟狀態からしても亦繁忙な點から言つても、子供の榮養を主とした辨當の獻立を家庭に要求することは不可能

であるから、出來得ることなら副食物の炊出をする方がよい。若し副食物の炊出をする場合は肉や魚一に對し野菜二の割合を以て調理し努めて扁食に陥らざる様注意したいものである。

六、午睡 夏季に開設する場合は、晝食後一齊に午睡させるがよい。農家の朝は早いが殊に繁忙な時は食事の關係等で子供も早起するからその不足した睡眠時間を補充させる必要がある、而し餘り長時間に亙る時は夜間の睡眠を妨げ親の安眠を妨害することもあるから約一時間位を標準とし多少の長短は止むを得ない。

晝寢の出來ない子供に無理に強ひるのは衛生上よくない。しかし全體の空氣を攪亂するやうな態度は慎ませる方がよい、午睡時に於ける注意處置は、靜肅と清潔である。空氣の流通は寢室の要件である。風の方向に頭部を位置せしめ睡眠時に於ける體の位置、咳する子供、猿股腹卷の着否等に著眼し善處せねばならぬ。

七、間食 午前午後の二回に給與する。方法は一同手を洗ひ一重の圓形をつくつて内面して著座する。勿論先生も列中に入る。一人宛盛られた菓子器が幼兒の前に置かれると、子供は右向き左向き己が皿と他の皿とを比較し緊張した氣分で量の多少を見分ける視線は光る公平な分配を行ふ可きは言ふ迄もないが、配布を終り皆のお行儀が整つて靜かになるのを見て先生はいたゞきませうと宣言する。

八、退所 子供が歸宅しても親達が在宅してゐないならば危險ではあるし、でなくとも早く歸す時は道草を喰つたりするのみでなく、遅くまで居らねばならない残された子供に淋しさを感じしめることにもなるから、單獨で歸れるものでもぼつぽつお迎へが来る頃までは退所させぬ方がよい(以上は日中行事の主なる項について述べたので行事の全體ではない)

一〇、農繁期託兒所の往復保護

託兒するお母さんは朝出畑へ出る道すがら子供を連れて行つて託兒所に預け、夕方仕事を了へて家へ歸る前に託兒所に

寄つて自分の子供を連れて歸るのが一番よいので、兄弟等が登校の途次連れて來、歸宅の際連れ歸つたりするのも必ずしも悪い事ではない。

保母を女子青年がやつてゐて、託兒所へ通ふ沿道の託兒を送り迎へて居る所もある。然し子供が獨りで往復し得る様に考へらるゝ場合でも、單獨で往復させる事は幼兒の爲めに危険がないとは言はれないから、單獨での往復は成るべく避けねばならない。

一一、農繁期託兒所の設備

農繁期託兒所の設備として考へなければならぬものは建物、備品、遊園等であるが、これが臨時的施設であるから、出來得る限り經費が安價で經營が出來る様に工夫しなくてはならぬ。

先づ建物は寺院、小學校、公會堂、篤志民家等が利用出來ればこれを借用することが何よりも好いことである。それを幼兒等がごの様に騒いでも破損する虞のない様に、疊及建具等を取はづして、別途に保管して、唯午睡室安眠室等は疊敷の別室として使用する様にすれば結構である。又適當な建物がなければ田舎にあり得る森の下蔭なごを遊場として、雨天及日光直射の際木蔭に入るごか納屋に入る等にして、多くの時間は戶外に於て遊ぶご云ふ方法を取る様にすれば、室内を使用する時間は短かくすむことになるのである。

次に備品としては、農繁期託兒所にも樂器が必要であるから出來るならベビオールガンでも備へつけられるご結構である。然しなければ手拍子で唱歌を歌はせても一向差支はない。又此の樂器を使用するご同時に必要なのは樂譜である。これは手拍子で歌ふにも樂器を使用するにも必要であるから、だれでも歌ふごの出來る様に解り好いものを選んで謄寫摺りにもして各方面に配つて使用させるのもよいと思ふ。

食器は是非なければならぬが、其他に玩具繪本等もあればこの上もない。又この外に小旗綱引用の綱なごも次から次へご遊ばせ變化さして行くごが出来るから必要である。積木等も高價なものを買ひ求める必要はない。普請場の木片なごを拾ひ集めたもので充分、或は二三寸大のものを大工に造くらしてもよい。この外五寸位の長さに切つた竹篋をよく磨いて竹がへし川さして與へるのもよい。

又夏季の託兒所になるご蚊帳が必要である、木蔭で眠らせたり隅の方で眠らすのに必要である。好く子供の眠つて居る時に蚊がさすごか蠅が顔にたかつて居るごなごあるが、これは實に可愛さうである。

それから簡単な遊園の作り方であるが、これは子供を自發的に遊ばせる爲になければならぬ設備である。これを都會の公園や幼稚園の様にすれば非常に澤山な金がかかるから、簡單で丈夫なものを作るが好い、滑臺の如きは小高い丘を利用して溝を掘つてその底に板を入れ、杉丸太二本を兩手すりとするごか、竹の節を取つたものを丸太の代りにするごかして簡單に作るごが出来るが、その傾斜は高さ六尺に九尺の滑道にするごである。ブランコは立木の枝を利用して綱をさげて作るごも好い、唯垂れ綱が長くては危険である。幼児用としてはブランコに立乗りして上に手を延ばしてその上三尺位餘す位な長さが好い。ご云はれて居るから、垂れ綱は六尺五寸位ものが適當である、又金棒の代用として竹の節をさつたものを二本の立木又は柱にくゝりつけたものであるが、これも幼児が腹部に當て金棒を使用する様に使ふごの出来る様にするのも面白いものである。

砂場は、川が近ければ穴を掘つて簡單に砂を運んで作るごが出来るが、これが管理方法は砂に少し水を與へて砂を團子に作るごの出来る様にして置く必要がある。また砂の代りに土を掘りかへして相撲場を作るごか、或は丸木を横倒にして固定圓木に使用するごか云ふ様に、農家の木材を破損しないで色々に工夫して遊び場を作るごも出来るのである、

尙運動場を作るには、幼児達が怪我をしない様に運動場とする土地を好く掘りかへして、ミゲや硝子の破片其他で幼児が素足で歩いても何等差支ない様に土地を整理してやることである。

次に幼児を管理する必要から運動場として遊ぶべき土地と他の部分を限るために境界を設けることが必要である。これも立派なものを作るに多くの経費を要するから、唯杭を打つてその杭を幼児がまたぐことの出来ない程度の綱を張つて置くことである。若しも必要があればもぐることの出来ない様にすることも考へて置かねばならない。かく境界を定めてこれから外に出て遊んではならないと定めて置くことである。そして種々な遊具はその内側に竝べて置けば幼児が敬つて遊ぶことの出来る様に設けることである。此の様に農繁期託児所で出来るだけ多くの遊具を設けたり、玩具を備へたりするのは、幼児が次から次に變化ある遊びを自由に爲して、長い時の過ぎるのを忘れて面白く遊び得るからである。若しも玩具や遊具が少ないと、幼児達がお互に遠慮して遊ばなければならないからである。時としては保姆が多くの幼児を遊ばせることがあるから保姆は非常に心を用ひて疲勞を増すのであるが、遊具や玩具を使用して幼児が自發的に遊ぶことが出来るミ、保姆はこれを監督して居りさえすればよいのである。此點をよく考へて經營者が相當な設備をしなければならぬ。

最後に玩具でもなく遊具でもないもので必要な設備は便所である。常設の幼稚園や託児所に於ても洗面所便所下駄箱等は實に研究を要する設備であつて、洗面所が不完全であるミトラホーム其の他の傳染病の媒介をすることになる。便所が不完全であるミ不潔になつたり怪我をしたりする。下駄箱が不完全であるミ、履物を窃まれたり紛失したり又幼児が歸宅の際にお互に先を争ふて不快な氣分を懷き、この日の保育の効果を喪失して終ふことがある、農繁期託児所に於ても特に便所の如きは怪我しない様に作る必要であつて、これは板製のアンコを作り、小さい穴から深い穴に糞を落す様に

作ることが好いと思ふ。糞が深く落ちることはそこに蠅が付かない様にする爲である。

一二、農繁期託児所の經費

『農繁期託児所をやつてみたいけれども金がかかるので……』農繁期託児所の設置に直面して我等は各方面から此の聲を聞くのである。果して此の聲の如く農繁期託児所の設置が、他の幾多の社會事業施設と同じ様に莫大な費用を要するならば、この緊切な施設も『金がかかる』この理由の下に顧みられないかも知れない。幸にして開設されても、形式が完備しないがために斯業の成績を擧げることが出来ないかも知れない。然るに此の農繁期託児所に至つては斯業の精神を理解し精神の充實を圖れば、ある程度迄經費の節約をなし得るに共に、其の尊き使命は容易に果すことが出来るのである。

(1) 努めて共同經營すること

(2) 設備及保育については小學校、寺院、民家等あらゆる機關を利用すること

(3) 篤志家の援助を仰ぐこと

(4) 篤志職員の増加をはかること等考慮することが必要である。

今假りに一ヶ所開設の總費用を五拾圓とする。之を二つの主體で經營する時は、一主體の支出貳拾五圓であるけれども、五つの團體が協力すれば、一團體僅かに拾圓で済む。拾圓の負擔尙重しとするならば、此の時こそ篤志家の援助によつても得られるのである。又設備の點にしても、ブランコ砂場積木等の如く奉仕に仰ぐべきものは部落の青年諸君に依頼し、玩具の如きも篤志家の寄附を求むれば、昔の子供の玩具で寶の持腐れに長持の中に轉つて居るものも随分あるもので、又高價なものであるとか特殊のものは可成借入れる様にするのがよい。殊に保母の奉仕こそ經費總額の半減ともなつて、本施設が慈善事業でも亦單なる保育所でもない大使命にふさはしいことなるのである、而して設備が充分でなく

も一定の時間は保育せねばならないから、保育の方法に對して眞剣に研究させられる。託兒所にのみ居ても遊具が乏しいから自然野外に出て大自然に接觸し、自然の思物により色々工夫を凝らして保育することが出るので又かうありたいものである。此の意味に於て農繁期託兒所は其設備は簡單でも精神的保育の實を擧ぐるこゝが出来ゐる。斯くするに、經費は何程も要せぬ。蓋し小經費で大なる効果を收めるこゝなるのである。經費捻出の一方方法として、保育料を徴收せる地方もあるが、之は無いのが原則の様に思はれる。若し徴收するにせよ充分父兄の了解を求めざれば託兒所の効果を減ずる。こゝになる今某所に於て調査した農繁期託兒所の豫算の立て方を參考に載するに次の様である。

- 1、新設託兒所一日一人に對する諸經費合して十一錢九厘
- 2、再設託兒所一日一人に對する諸經費合して八錢六厘
- 3、間食は一日一人二錢六厘

右の調査に基き豫算をたてゐるには大體左の標準によれば大過ないと思ふ。

託兒所の支出を一日一人八錢五厘と見做して

- 1、事務所費職員費 二錢五厘、
- 但筆墨紙薪炭印刷費及職員慰勞費其他

- 2、設備費 二錢五厘

但新設の託兒所は五錢五厘とす(可成奉仕に仰ぎ節約)

- 3、間食費 二錢五厘

(可成節約を可とす)

但一日二回程度の給與ミなし給與の必要なきか又は一日一回給與の所は之を設備費又は副食費等に廻すこと

4、其他 一錢

但副食費及雜費

右は入所人員に乘じて豫算の總額を見積り、不足金は補助金助成金等により又篤志の寄附を仰いで缺損なからしめ、斯業を永久に存續する様に取計ひたいものである。

一三、農繁期託兒所の開設準備心得

先づ第一に村内の主なる人々に開設の趣旨並事業の必要性を理解せしめ、第二には農繁期の繁忙さを理解し、隣保相扶の親切心さへあれば誰にでも出来る仕事であることを思はしめ、第三には既に前から實施して居る所の様子を二三の有志をして視察せしめ、第四には他町村に於ける農繁期託兒所の效果及其の利益を説き聞かせ、第五には開設の勞を取るべき中心人物（神官、僧侶、教師、方面委員、小學校長其他篤志家等）に前以て打合して各方面の協力を得て折角の計畫が内輪から破れぬ様努めねばならない。

母子保護法に就て

財団法人中央社會事業協會主事

高

島

巖

(二) 扶 助 機 關

本法は、もともと、國家の事務であるが、その執行に當つては、職務上その他の關係から、常に扶助を受ける母子に接近し、その事情を承知してゐる點で最も適當であると思はれる夫々の地方の市町村長に委任することが、最も便利であるといふ點から、これがための特別の機關を設くることなく、市町村長を執行機關としてゐるのである。但、救護法が、原則として、被救護者の居住地の市町村長、例外的に現在地の市町村長をもつて救護機關としてゐるのに對して、本法の扶助機關は、現在地を考慮せず、居住地の市町村長のみに、扶助事務の執行を委任してゐるのである。これは、本法が母親をしてその子をその膝下に於て養育せしめんとする趣旨をもち、従つて一定の住居をもたない母親には、本法が望む如き子女の養育を期待することが出来ないことを認められた結果に依るものである。但、居住地に於ける居住期間の長短は、問はないことになつてゐるので、一旦居住が定まれば、直に扶助を開始することを得るのであつて、この規定の存するために、支障は起らない筈である。

扶助の執行機關は以上の通りであるが、元來市町村長の事務は、その専門事務の外に、國又は公共團體よりの委託事務が極めて多いため、本法に規定する如き、要扶助者の生活情態を詳査して扶助を決定し、その後になつても、常にその視察指導に任ずるが如き事務については、市町村長の事務を補佐すべき適當なる機關を必要とすべきは、云ふまでもない。本

法は、これがため、特定のもの設けることなく、方面委員令に依る方面委員をもつて、これに充てることに定めたのである。これは、方面委員が、その職責上常に要扶助者に接近して居り、且つ、他の立法關係、特に救護法等の運用にも参劃してゐる關係から、適當に認められたからである。

(三) 扶助の種類及方法

母子保護法に依る扶助の種類は、

イ、生活扶助

ロ、養育扶助

ハ、生業扶助

ニ、醫療

の四種類である。

救護法、軍事扶助法に比較して、本法に、養育扶助の加つてゐることは、本法の目的が、子の養育に、その大きな役割をもつ點から當然なことで、助産を除いてゐるのは、扶助を受けるものが、原則として夫のない、又はなきに等しいものである關係上、事例もなく、且つ、この場合には、救護法に依つて救護し得るを考へたからである。

然して、この扶助は、原則として母の居宅に於て行はれる。居宅扶助を原則としたのは、本法の主要目的たる子女養育は居宅以外に於ては達し難いを認めたためで、唯醫療のための入院等の場合は、特に例外的に居宅以外に於ても扶助をなすことが認められてゐるのである。

イ、生活扶助

生活扶助は、母が生活して行く上に必要な最低限度の資料を補給せんとするものであつて、その補給は、金銭又は物品をもつてすることになつてゐる。尙、この場合、多少でも収入のある場合、その他扶養義務者等より給與を受ける場合は、限度額からその収入額を控除した不足分についてのみ給與することになつてゐる。金銭をもつて給與するか物品をもつて給與するかは、市町村長に於て、これを決定する。

尙、この生活扶助の限度は、救護法との關係を考慮して、一人一日二十五錢以内に於て地方長官がこれを定めることになつて居り、六大都市の如き大都市なきに於て、この限度にては實情に適しない場合は、地方長官は主務大臣の認可を受けて、右限度を超過して、その限度を定め得ることになつてゐる。

ロ、養育扶助

養育扶助は、子を養育するに必要な費用、即ち、子の生活費、教育費等、その日常生活上の費用一切を補給するものであつて、補給の方法は、前段同様、金銭又は物品をもつてすることになつてゐる。

救護法に於ては、子の養育に必要な費用もこれを生活扶助として定めてゐるが、本法に於ては、立法の趣旨に則り、母の子女養育さいふ點に重點を置いて、特に養育扶助の種類を設けたのである。

養育扶助の限度も一人一日二十五錢以内に於て地方長官に於て定められることになつてゐる。超過して定むる限度に関する規定も生活扶助の場合と同じである。但し、生活扶助及び養育扶助を合して一世帯に付一日一圓を越ゆることは出来ないことになつてゐる。

ハ、生業扶助

生業扶助は、母に、その家計を助くべき生業を得しめるために行ふ扶助であつて、その方法は、母の生業に必要な資

金、器具、資料の給與又は貸與をなさんとするものであり、その範圍も、要扶助者をして自營の途を講ぜしめるに必要な、最少限度に止めることになつてゐる。

尙、本法に於ける生業扶助が、救護法に於けるそれと多少異つてゐる點は、前記母の生業に必要な資金、器具、資料の給與又は貸與をなす他に、生業に必要な技能を授くることに依り、これを行ふ點である。

かくの如く定めた理由は、救護法の對象が、六十五歳以上の老衰、十三歳以下の幼者、妊産婦、不具廢疾、疾病其の他精神又は身體の障礙に因り勞務を行ふに故障ある者にして貧困の爲生活すること能はざるものであるのに比べて、本法に依る扶助對象は、勞働能力があつても幼者をかゝへてゐるために、その子の養育に迫はれて生活不能に陥るゝか、その子の養育が不充分であること云つたものである關係上、かくの如く定めたものと思はれる。

然して、生業扶助のために支出する費用の限度は、一人に付三十圓以内に於て地方長官がこれを定め、特別の事情ある場合は、地方長官は主務大臣の認可を受けて、右限度を超過して定むることは、前段生業、養育兩扶助の場合と同じである。

二、醫 療

醫療は、母又は子が、疾病、傷痍にかゝつた場合、これを救療せんがための扶助であつて、原則として、市町村長の指定する醫師、藥劑師をして、診斷、處置、投藥をなさしめるのである。

醫療に要する費用の限度は主務大臣の認可を受けて地方長官に於てこれを定めることになつてゐる。

尙、急迫なる場合等、地方長官の指定する醫師、藥劑師にかゝり得ない場合は、例外として適當の處置を講じ得る道は拓かれてゐるが、この場合の費用は實費をもつて支出し得ることになつてゐる。

扶助を受ける母又は子が死亡した場合、残された母又は子が、その埋葬に要する費用をもたないことは通例であるか

ら、この場合は、親族其の他埋葬を行ふ義務のあるものもこれをなし得ない時は、市町村長は、扶助の延長として、埋葬費を支給し得ることになつてゐる。然して埋葬を行ふものゝない時は、市町村長がこれを行ふことに定められてゐる。

埋葬のため支出する費用の限度は、拾圓以内となつて居り、特別必要ある場合は、主務大臣の認可を受けて、地方長官に於て、例外的に其の限度を超過して支出し得る途の定められてゐることは、前各種の扶助の場合と同様である。

四、結 言

以上をもつて、母子保護法の成立ち及び内容のうち、扶助対象、扶助機關、扶助の種類及び方法の概要を述べ終つたのであるが、結局法は死物であり、本法制定の趣旨の達成は、これの運用の如何に依ることは云ふまでもない。然して、これが運用を最も有効適切ならしめるためには、先づ、本法制定の趣旨並にその内容が一般社會に理解せられることである。このことのために、本小稿が、多少でも役立つことを得るならば、望外の幸ひである。

最後に、母子保護法全文を掲載して參考とする。

母子保護法

(昭和十二年三月三十一日
公布 法律第十九號)

第一條 十三歳以下ノ子ヲ擁スル母貧困ノ爲生活スルコト能ハズ又ハ其ノ子ヲ養育スルコト能ハザルトキハ本法ニ依リ之ヲ扶助ス但シ母ニ配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

母ニ配偶者アル場合ト雖モ其ノ者が左ノ各號ノ一二該當スルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ母ハ配偶者ナキモノト看做ス

一 精神又ハ身體ノ障碍ニ因リ勞務ヲ行フコト能ハザルトキ

二 行方不明ナルトキ

三 法令ニ因リ拘禁セラレタルトキ

四 母子ヲ遺棄シタルトキ

第二條 本法ノ適用ニ付テハ十三歳以下ノ孫ヲ擁スル祖母ニシテ命令ノ定ムルモノハ十三歳以下ノ子ヲ擁スル母ト看做シ其ノ孫ハ其ノ子ト看做ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クベキ場合ト雖モ母ガ性行其ノ他ノ事由ニ因リ子ヲ養育スルニ適セザルトキハ之ヲ扶助セズ

第四條 第一條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クベキ場合ト雖モ母ノ扶養義務者及其ノ子ノ扶養義務者共ニ扶養ヲ爲スコトヲ得ルトキハ之ヲ扶助セズ但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 扶助ハ母ノ居住地ノ市町村長之ヲ行フ方面委員令ニ依ル方面委員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ扶助事務ニ關シ市町村長ヲ補助ス

第六條 扶助ノ種類ハ生活扶助養育扶助生業扶助及醫療トス

扶助ハ母ノ生活及子ノ養育ニ必要ナル限度ニ之ヲ行フ扶助ハ母ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ但シ市町村長必要アリト認ムルトキハ居宅以外ノ場所ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

前三項ニ定ムルモノ、外扶助ノ範圍、程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 市町村長ハ扶助ヲ受クル母ニ對シ其ノ子ノ養育上必要ナル注意ヲ與フルコトヲ得

第八條 扶助ヲ受クル母又ハ其ノ子死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ埋葬ヲ行フ者ナキトキハ扶助ヲ爲シタル市町村長ニ於テ埋葬ヲ行フベシ

第九條 扶助ヲ受クル母及其ノ子ヲ保護スル爲必要ナル施設ノ設置、管理、廢止其ノ他施設ニ關シ必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

市町村又ハ私人前項ノ施設ヲ設ケントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十條 扶助ヲ受クル母左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ市町村長ハ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一 本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル處分ニ從ハザルトキ

二 故ナク扶助ニ關スル調査ヲ拒ミタルトキ

三 第七條ノ規定ニ依ル市町村長ノ注意ニ從ハザルトキ

第十一條 救護法第十八條、第十九條及第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ扶助及埋葬ニ要スル費用、第五條ノ規定ニ依リ方面委員ガ職務ヲ行フ爲必要ナル費用竝ニ第九條ノ施設ノ費用ニ之ヲ準用ス

第十二條 救護法第二十六條乃至第二十七條ノ二ノ規定ハ扶助ニ要スル費用ニ、第二十八條ノ規定ハ扶助及埋葬ニ要スル費用ニ之ヲ準用ス但シ救護ヲ受クル者トアルハ扶助ヲ受クル母又ハ其ノ子トシ救護ヲ受ケタル者トアルハ扶助ヲ受ケタル母又ハ其ノ子トシ其ノ費用トアルハ其ノ者ノ爲ニ要シタル費用トス

第十三條 救護法第三十條及三十一條ノ規定ハ第九條ノ施設ニ之ヲ準用ス

第十四條 詐僞其ノ他不正ノ手段ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

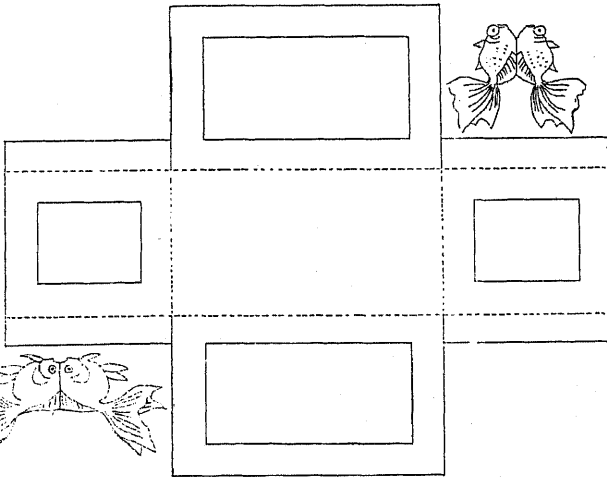
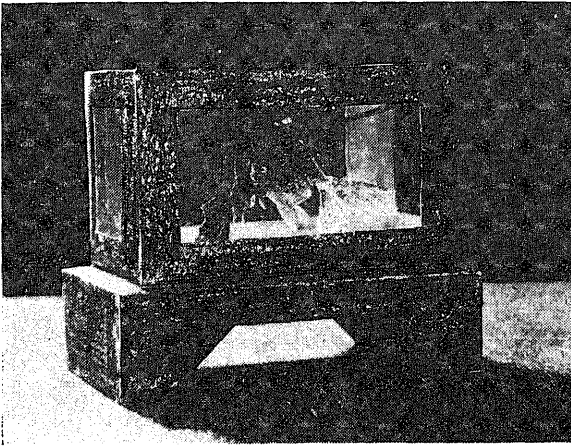
フレイベル賞入選手技

佳作二

金魚鉢台

群馬縣境町幼稚園

小田 桐たか子



セロハン 縦、一寸五分、

横、三寸五分、 } 三枚

内一枚は二ツに切る

白 糸 長さ一寸五分、

拵へ方

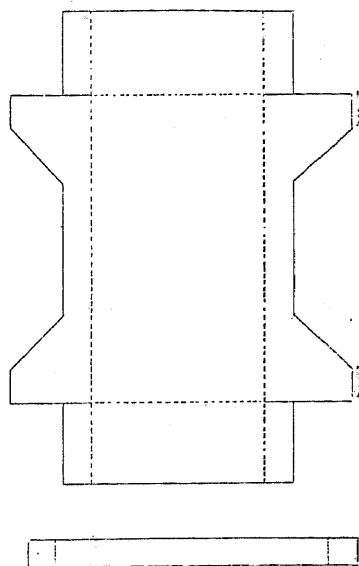
畫用紙に謄寫版で刷る

クレヨンで塗り、輪廓に添ふて剪り抜き

セロハンを貼り、點線の所を折つて組みたて糊で貼る、

金魚を塗り、剪つてから中に糊をつけ白糸をはさめ折

り下げる。



材料

畫用紙 全紙八ツ切の大き二枚

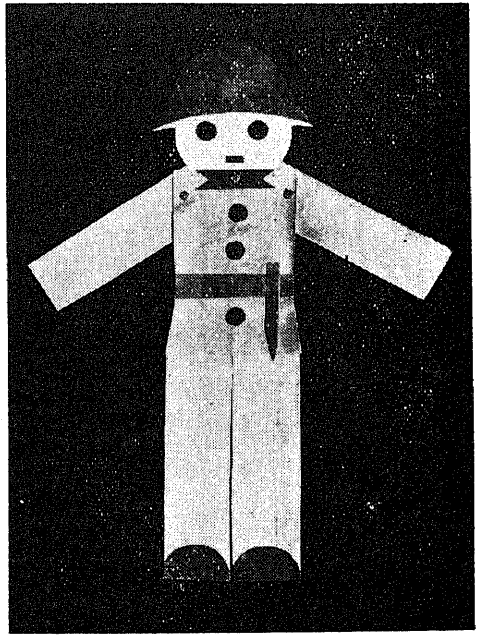
佳作 三

兵隊さん

可愛らしい兵隊人形さん、手ミ頭を動く様にピンで留めます。先づ鐵兜を作り、白の圓形紙を顔とし、鐵兜をかぶせ、

新潟縣新發田町 三 浦 秀

目、口を付け次に體を作ります。各々、寸法通りに、斷つた物を、手はピンで胴に留め、足は糊にて胴につけ、靴を



佳作四

木の葉應用貼紙

桃太郎(二)

製作法

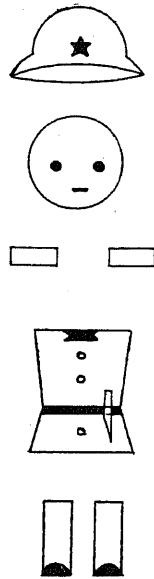
桃桜色紙直径一二糎一枚、中心線の切込は凡ぎ離れる迄に深く。Y點を兩方に開いて圖の如く。

福井縣敦賀市三島保育園

池野倍子

胴、頭。各樺色一二糎一枚、三・五糎一枚
腕。先づ胴を四等分。圖の如く更にBD線に平行にAO
の中心からEF線、此ミAB、AD線との交點EFへ各
々BE、DFミ切込み組立の際桃の上へ現す。總て中心

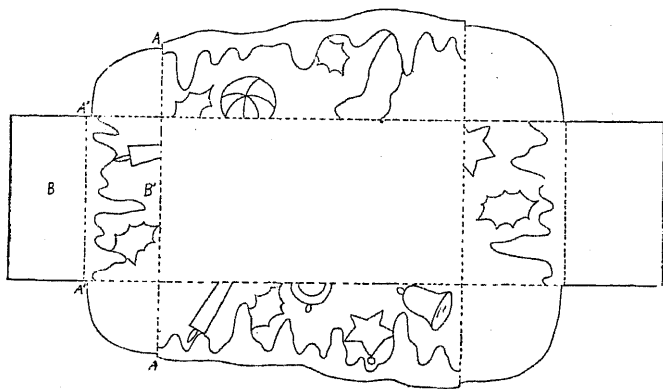
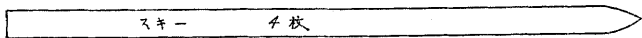
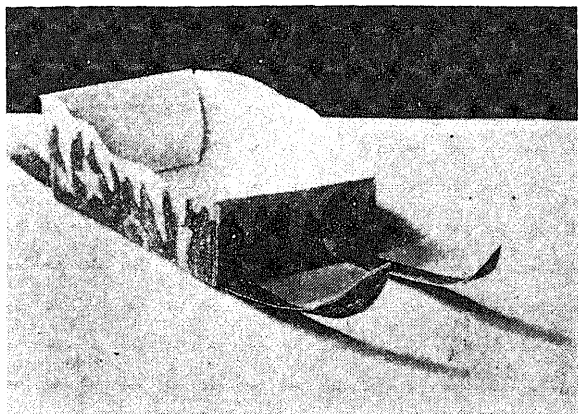
はかせて、衿章、ボタン、バンド、劍をつけ鐵兜に絲をつ
けて、つるす様にいたしまして出来上ります。



佳作 五

櫛

備考 「きびから」等を芯に色々のセロハンで包んだキャンデー或ははな色のキャンデーチョコレート等も入れたい。



東京市中野區沼袋 横瀬 末子

ボックスは糊はいらぬが若し丈夫にしたい時はBにつける。この櫛はクリスマス用キャンデーボックスであります。

造り方

- (イ) 雪は白く残し、地色は赤、スキーは黒、その他は隨意に色鉛筆にてぬる。
- (ロ) 折りは凡て内側へ折る。
- (ハ) A、A'を合せるミ白紙の部分は二等分されるそれをBの方へ折るその上へBを折り込む。
- (ニ) スキーはボックスの低い方が前で底面の両側に程よくつける。
- (ホ) スキーは二枚宛貼り合せ両面著色、先は少しそらせる。

五月の一週間

S

.

K



満四年三ヶ月より満五年一ヶ月までの幼児、男児十九名女児十
一名の二年保育の年少組

今週の豫定

四月八日に入園して以來三十日餘り、やうやく幼稚園でも自分を出して遊べる様になつた、お友達同志のお名前も覚えられた様だ。しかし未だ朝お附添はなれにくい者が一人、お部屋の外に出て遊ぶことの出来ない者が二人ある。皆の遊びも断片的、個別的なもの、方が多い様だ、もつとお友達同志遊ぶことの面白さを味はせる様にしてゆき度いと思ふ。今週の豫定もそんな心持で準備してみやう。

自由遊び 釣りごっこ・汽車ごっこ

釣りごっこの準備

先週畫用紙に謄寫したお魚を皆で色をぬり切りぬいたので、それを二つ合はせ、中に新聞紙をこまかに切つたものをほんの少々入れて絲で縫ひ合せ、口の所に針金を簡単に輪にしたものをつけておく。五十糎程のしの竹に三十糎位の稍く太い絲をつけ絲の先に釣り針の様に針金をまげてつけておく、これを子供の数だけ用意しておく。絲が長すぎたりほそかつたりすると、もつれるから注意して太く短いものにする。次にお部屋の適當な場所に箱積木をかこひにして適宜な大きさにつりばりを作り、中に前に作つたお魚を入れておく、側に「ツリボリ」と立札を立て、おく。

汽車ごつこの準備

四米位の適當な太さの繩を求め、これを輪にしたものを三つ程用意しておく、切符切りの鉄一つと、畫用紙の切り屑を切符の大きさに切つたものと用意しておく。これだけで汽車ごつこは充分面白く遊べることを思ふが、木切れを集めて改札口の柵を工夫し、出口、入口、キップウリバ、等の立札も作つておいてみよう。

誘導保育

水族館

準備

角材(一寸位)にて高さ一米間口一米半奥行七十厘位の枠を作り、背面及び天井にはボール紙をはり、兩側面はセロファンをはつておく、そして砂箱又は机を二つよせたものゝ上にのせる。次に白ボール紙、うすい畫用紙、白模造紙、等を用意し、何か參考になりそうな繪のかいてある本等も仕度しておく。

缺仕事 金魚

自由畫 自由畫帖の他に四つ切畫用紙を用意。

唱 歌 ミザソビーエホンシャウカー

遊 戲 ミザソビー(こまごり)

人形芝居舌切雀・天狗退治

童 話 ボチミおまんじゆう・赤んぼお爺さん・三匹の

小犬のはなし・おむすびころりん

五月十七日 月曜日 晴 (實習科生實習日)

今朝は一人も残らず氣持よくお附添の手からはなれ、本當によく遊ぶ事が出来た。庭に出て、来る子供をむかへたので皆庭靴にはきかへて外に出る。主に砂場で實習科生ミ一しよにお池作りだ。今日までは砂遊びミ云つてもおだんご作りやお山作り等が主で、お山にさんねるを先生ミ一しよにあげる事に最も興味を持つてゐたが、今朝は早く來たHさんの發案で池を掘る事になつたらしい。来る子供も来る子供も水の入つたこのお池に引つけられてしまつた、ぎろくろくの水の中におしよもじを入れては中の砂を出してベタ／＼池のふちをたゞいてゐる。砂遊びがこんなになつたのは今日はじめの事だ。女兒はブランコに數人實習科生におしてゐたゞいてゐる。さうしても外に出られなかつたMさんミNさんはやはりだめだ、そして小さい聲で「僕御本よむのがいゝの」云ふ、實習科生に御本を讀んでいた

よく。Nさんの方は本にも興がないらしく、お窓にもたれて外の遊びをみてゐる。やつと数日前に附添の手をすつかりはなれる事の出来た二人であるから、まだもうしばらく様子をみることにする。二人は外には出ないのだと自他共に思ひ込むでしまふと、若しその機會があつた場合にも、すなをに出来ないなくなつてしまふおそれがあるから、當分は無理に外に出る事をさそはずだまつてゐることにしやう。

九時過ぎた頃ブランコのりの數人を誘つて室に入り自由畫をはじめた。今日は四つ切りの畫用紙に描くことにした。この大きな紙に描くのは今日で三度目である。(各幼兒の繪をみてゆき度いと思つて一ヶ月に二回づゝ四つ切畫用紙にかゝせて、まつておく。二年後の修了の折にはずる分面白いものがみられる。)K子さんMさんの二人は未だ繪としてはまさまらない、二人共紙を一ぱいにつかつてクレオンを力一ぱい動かせてゐる。Kさんのは人の顔らしいものが真中に一つ出来てゐる。Mさんのははじめはお家が火事だ火事だ云つて今日も眞赤にぬつてゐるたがその中雨が降つて來たの、云つて黒いクレオンを上から下へ走

らせてゐる、するに今度は雨の中を自動車が行つてゐる自動車らしきものをかく。説明をきゝながらよくみてゐる。この繪の何も彼もが生々として動いてゐる様にみえる。もつとさき度い云つて大部分の者が二枚程かいた。その中砂遊びの連中も手を洗つて入つて來て描きはじめた。裏に自分の名前を記させ年月日を記しておく。

仕度をして遊戯室に行く、遊戯をしないのはMさんだけになる。はじめにこまざりを新らしくしてみる、はじめの數回は圓周上を行つた、スキップの出来ぬ二三人の者もすり足で羽をひろげて面白そうにしてゐた。大きい組のをみてゐるためか女兒等はよく分つてゐた。數回の後自由な方向に行つた、皆思ひ思ひに椅子の間やピアノの下等に向つてさんで行く、これがさんなにか面白いらしい、數回してから皆元の位置に戻る様にした。くつやさん・たんぼ・てふく・鳩ぼつぼ・まゝご・雀の子等した後、一人づゝスキップをする。スキップの時ぼご子供達の顔がうれしそうに見える事はない。ピアノに合はせて力一ぱいにさび廻つてゐるのだ。

お部屋に歸り、お仕度をしてお食事にする。お仕度も皆一人で出来た、お椅子をふかく入れる様注意して以來は床の上にこぼす者は殆んどなくなつた、今日はお湯をこぼした者もなく皆正しくいたゞけた。

午後はお庭に植木屋がおこした八つ手の葉を拾つては、先日みた人形芝居の天狗の團扇を思ひ出したのであらう、獨白通りにバフ／＼／＼先生を追ひ廻してお山を上つたり下りたり大變な騒ぎ、大銀杏のところでたう／＼天狗はこの大勢の小太郎に降参してしまつた。やがて仕度をして一時半御機嫌ようをしておかへりにした。

今日は何もなく落つたよい日であつた事がうれしかつた。毎朝先祖の位碑に子供が無事であります様に、ごたゞそれのみを祈つて来るが今日もこうして無事に過すことが出来たと思ふに本當に有がたい感謝の氣持で一ばいである。

五月十八日 火曜日 曇 風強し。

昨夜は妙な夢をみた。S子さんが椅子にかけたまゝ一寸横に轉んだ拍子に隣の椅子に足を打ちつけた、足からは血が出てする分長く切れてしまつた、應急の手當をしてか

ら大急ぎでお宅にお電話をかけ様としたがさうしても番號の字が讀めないのだ、あせつてもあせつても字は見えなくなるばかり。夢でよかつたさ一安心。あまり怪我の事はかり心配するからだ、ミ皆に笑れたが、自分はこの主人公がS子さんである事にドッキリしたのだ。いつも朝離れにくいし、兎角何事にも手のかゝる子供だ、ミそんな心持で接してゐたのであらう。心にすぎが出来てゐるぞこの神佛のお誓めであらう。朝、無事なS子さんの顔をみてホッとした。

来る子供も来る子供も外に出ては、そこにおいてある改札口の柵の出入口の札をみて「これ何」ミきく。こゝは驛、こゝで切符を買ひ、こゝで鉄を入れ、汽車にのり出かける事を説明する。柵も立札も、卒業した前の組の方が用ひたものが物置にあつたので拜借して手輕に間に合つた。それが汽車なの、ヒヤーその綱か、車のない汽車だつてさ。ミYさんが云ひはじめミ、皆が「へんだね。」を連發。しかし皆早速その汽車にのつてみた。お机を一つ外に出して切符の入つた箱をおき、切符賣りには女兒二人をあてる。切符を切る役は皆がなりたいので交代にする事にお約束をし、い

つもおおなしいAさんに先づしていたゞ。運轉手も車掌も交代にする。元氣のいい男兒の列車はピリピリの合圖と共に急行を出してお山を登りはじめた。あはて、急行列車ではないことをお約束に行く。今まで外に出なかつたNさんも知らぬ間に汽車にのつてゐる、うれしかつたがだまつて見ぬふりをしてゐた。その中に驛夫さんも交通巡查も出來た、プラットホームにはだん／＼お客様がふえてゆく。お部屋では女兒が屑書用紙の箱をかゝへて切符を買ふお金を作つてゐる。この連中は切符を買ふことよりもたゞ／＼お金を作りに夢中のていである。切符賣り場を手傳ふ、熱海二枚下さいさか大阪一枚等いふ通りに字をかいて渡した。名古屋行には名古屋城の繪を一寸すみにかいたら皆大よろこびで、皆が名古屋行になつてしまつた。走る汽車の方も心がかりなのであさについて歩く。この遊びも大きい組であつたならさんなにか發展して行くこゝであらうと思つた。子供は實に大よろこびですつかり遊びに没頭してゐた。一寸したこゝでこの様にまでよろこんで遊ぶこゝが出來たと思ふさ本當にうれしかつた。

汽車をお部屋の中の車庫に入れて人形芝居をした。さう

しても外に出ないMさんは餘程人形芝居が好きさみえる、先日以来毎日「今日人形芝居してよ」さそつささゝやきに來る。種々都合もあつて毎日は出來ないのが心にかゝつてゐた。今日はMさん大よろこびでお仕度をした。人形芝居さ云つてもこの組するのは、一々離れた作業室から舞臺を運ぶのは一人では出來ないので、いつもまゝこの家の中に入つて、一番大きい窓の所から人形を出すので、幕も背景も無いのだが、そんな事でも子供のよろこび様は大したものなのだ。一人きりでするのでいつも天狗退治をしてゐたが、今日は舌切雀もしてみた。はじめてなので皆たゞ靜かに見てゐた様であつた。雀おぎりの時には手が二つしかないので本當に困つた、お爺さんさ雀はかげで見えてゐるこゝして、二羽の雀が唱歌に合はせておぎつたが、前に工夫してお爺さんさ雀を立つ様にしておけばよかつたと思つた。天狗退治の方は數回目なので子供もすつかり獨白を覺えて、小太郎が團扇をさりそこねて天狗に怒鳴られる所の前に來るさ息をこらして居るらしい、「こわい、さいふ聲もきこえる。最後に成功する時はしつかり／＼さ應援し一緒にバフ／＼／＼さ夢中になつて云つてゐる。すむ

「Mさんは「又あしたもね、」と、そつと云ひに来る。ラヂオをきいて後お食事にする。

午後は又汽車ごつこを、と思つたが、外はあまりひどい風なので、お部屋の中で御本を讀んだりつりばりのお魚を釣つたりして遊んだ。お歸り前に、ボチとおまんじゅう・赤んぼお爺さんのお話をした。いつもお話の時に何でもその都度きゝかへすKさん、ボチとおまんじゅうの話の時「先生早く今のうち拾へばいいのに、」とはらくして心配してる、やがてそれがジャガイモである事がわかると、「何だおれもだく、」と一人でくつ／＼笑つてゐる。お話がすむとすぐに靜かに御機嫌ようをしてお別れした。一日一日目に見えてよく遊べる様になるので本當にうれしい。殆んどお休みもなく悪い病氣も入らない、有難いことだ。

五月十九日 水曜日 晴

今朝はさうしたのかS子さんがすぐには離れなかつた。

S子さん自身も朝は何さなく心細いのであらうが、お母様の方がもつとお心細いのであるらしい、「さあ、さよならとお云ひなさい」とおつしやる。一度さよならがお母様の耳に入つても、その手をつないだまゝもつと大きいお聲で云つ

てちようだい」と何度もおつしやる。S子さんもこうなればだん／＼さよならが出来なくなつてしまふ。いつもお母様のお歸りになつた後は、大變な元氣でお話も大きな聲で出来るし、皆さよく遊ぶのであるが、お母様の前ではます／＼お母様を心細くおさせする様な態度ばかりなのだ。Mさんが今日はお山の上り口の所まで何度も往復してゐる。Nさんさいひ、Mさんさいひ、こんなうれしいことが早く實現しやうとは思はなかつた。

外では汽車ごつこもはじめられたし、お砂場でも大それた落付いて積木の汽車を走らせてゐるので、時々外に氣を配ることにして一先づ内に入り、数人づゝ呼んで金魚のぬりゑをした。皆ぬりゑは大好で女兒等はも一つぬり度いさ云つてゐた。今日はお机の眞中に金魚鉢を置いてそれをみてゐる様にした。砂場から入つて來た數人の男兒、水槽の中のメダカをみてゐた。おなかの中がすき通つてきれいにみえることなぞ、お話し合ひしながら。お砂あそびの者も少しづゝ入つてぬりゑをした後、Mさんがあまり催促するので今日も又人形芝居をする事にした。今日はお隣の川の組の方も御一緒に見て下さつてうれ

しかつた。

お食事の時何かにつけて落付くことのないK子さんが、お辨當を皆にみせて廻つてゐる中に、床の上に落してしまつた。中からは小さく切つた子供バンがころ／＼全部ころげ出してしまつたのだ。これは汚いからやめませうと云つたが、さうしてもきかぬ、これを食べるのだと大聲で泣き出す。云ひ出したらきかぬ性質のこの子の事だ、ずる分困つた。他のバンではいやだと言ふし、兎角お腹をこわす事の多い子供である、まして今日はバンが入つてゐるのだから少々工合が悪いのかも知れない、大急ぎでお宅に電話をして持つて来ていたゞくこにした。皆に先に召し上れをしてからます／＼泣くK子さん、部屋を出てお玄關でお辨當のさゞくのを待つ。お母様が同じバンをお持ち下さつたのですつかり機嫌がなをる。

午後は少々暑すぎる位であつた。皆お山の下のお池の所に竝んで寫眞を撮つた、皆揃つてうつす寫眞はこれで二回目である、相變らずNさんやKさんがよろ／＼さゞび出して來るのになか／＼撮れない、する分時間がかゝつてしまつた。

お歸りの時水族館のお話をし、このお部屋でも水族館を作りませう、さとお約束してからお別れした。

五月二十日 木曜日 曇 風強し。

朝來た子供から少しづつ水族館のお魚を聞いた。大きい畫用紙を與へたが皆割合に小さいものばかり出來てしまつた。先週釣つたこのために澤山謄寫すりのお魚に色をつけたので皆割合に樂しそふにしていた。小さいのは餌にするのだと切り屑でも澤山作つてゐた。龜をかくと云つた者があつたので、白ボール紙の切り屑を與へたところ、皆龜になつてしまつた。數人には白模造紙二枚つぎ合はせたものに背景をかいていたゞく。皆なか／＼くわしく、「いかは泳ぐ時はこうして泳ぐよ。」「たこは赤いのではないのだよ」等と云ひながら描いてゐる。先生も一緒に手傳つた。

氣にはかけてゐたが少しづつ外に出てゐる子供の方がすつかりお留守になつてしまつた。砂場のお池作りにはこの頃すつかり面白さを覺え、さつさとお水を運んでお池にしてみふ。來週は水鐵砲や水車等を仕度してこの種の遊びも少々しろ水あそびから變へねばならないと思つた。

皆お仕度をして遊戲室へ行く。新らしくミジアンビの唱

歌をうたふ。お部屋のオルガンでうたふ時とはすつかり気分がちがふ様だ、いつも唱歌はピアノでしたいものだ等と思つた。皆で三回程うたつたらすつかり一番はおぼえられてしまつた。遊戲もはじめにミザソビの一番を一しよにした。水鉄砲から水を出す動作は特に力を入れて面白そうにしてゐた。途中で御不淨に行つたAさんがながく歸つて來ない。皆を圓形のまゝそこにすわらせて、その場から動かぬ様お約束してさがしに行く。ぎの御不淨にもゐない、お部屋にもお庭にも見えない、するゝ職員室からばあやさんに手を引かれて出て來た。間に合はなかつたのだそうだ、日頃氣の小さいAさん、御不淨に遊戲の途中で行く事は止めるお約束があまり強くひびきすぎて云ひ出せなかつたのであらう、本當に可哀想なことをしてしまつた。注意せねばならぬ事だ。今日のお食事は何事もなく過ぎた。此の頃はお食事中のお話がする分はずの様だ。四つのお机も實習科生を相手に大そう面白そうだ。午後は又風が強いので内で自由畫帖に繪を描いたり、水族館のお魚作りのつゞきをしたりして靜かに過した。

五月二十一日 金曜日 雨

朝から雨なので紙飛行機を澤山折つて今日のお部屋の中での遊びに用意しておく。早く來たHさん、僕も作れるミ手傳ふ。つりぼりもすつかり整理しておく。來た者から順に數人づゝ金魚鉢のおいてあるお机で金魚の切り紙をする。鉢や藻も切る。糊はやはり先生がつけて、はるのは自分でする事にし、切り屑を必ず籠の中に入れる事も又お約束する。

つりぼりは今日は大變な繁昌ぶりで女兒も澤山釣りに來てゐる。まゝごのお家では女兒がまゝごをはじめた。そのお家のお父様になつたYさんや、お兄様になつたAさんは、籠を下げて、つりぼりに行つては釣つて歸る。「はいお土産です」、「まあゝぎうもありがたうございます、早速フライに致しませう」等。しまひには釣堀りで釣つてゐた者がお魚屋さんになつてこのお家に賣りに來る。つりぼりの中のお魚は皆まゝごの家に來てしまつたしお料理されたのもずる分あるらしい。又誰か元に戻しては釣つてゐる者もある。こうしてずる分面白く遊びが發展してゆく。皆が部屋の中にあるので一方で切り紙をみてゐても、ずる分らくな心持で落付いてしてゐられる。用意した紙ヒコ

「キもつかはずにこうして大そう面白く遊びがつけられた。一方では白模造紙を興へて水族館の中に入れる海藻も作つた。

お食事後お片づけがすむでから、おむすびころりん・三匹の小犬のお話をした。お話は皆大好きで、いつでも、もつとして／＼、大變なさわざだ。今日のお話は二つともする分面白そうだった。いつも口数の少いNさんが、「時計なのに犬つてばかだな。」と一人ごみを云つてゐた。おむすびころりんでは皆する分笑つてしまつた。お歸りのお仕度の時にまで、「重箱　ころりんすつ／＼／＼」、「お爺さんころりんすつ／＼／＼」、「面白く云ひつけてゐた。雨の日は比較的騒がしくなり勝ちなのに、今日は本當に落付いて過せた様な氣がしてうれしかつた。

五月二十二日　土曜日　晴

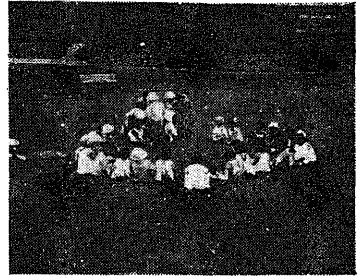
十日前に蒔いた朝顔が、昨日の雨で濕つた土の上に三つ四つ芽を出してゐた。毎朝来るに必ず自分の鉢を氣づかつてゐた子供達大よろこびであつた。お池の水が大そうきれいで鯉や金魚がよく見える、皆でお話ししながらやゝしばらくお池の鯉や金魚をみてゐた。「金魚が澤山行列作つてき

つゝ幼稚園に行くのよ。」「むかふから先生がいちつしやつたわ。」「今度は廻つてきつゝお遊戯してゐるのでせうよ。何のお遊戯でせうね。」等。可愛いゝ會話が／＼。いつも理窟を云ひ出すYさんも靜かに見てゐた。

皆お部屋に入つて粘土をはじめた。今日は水族館の中に入れるかに・かめ・さんご・等作る心もちであつたが、皆實習科生を相手にして種々作つていたゞいては賣り屋さんごっこになつてしまつた。数人づゝグループになつてお菓子屋さんもあれば、果物屋さんもあるし、犬屋さんもある。

お金も粘土で作つて買つたり賣つたりして大そう面白くなつてしまつた。一時間以上遊んでしまつた。こちらの心持は違つた結果にはなつたが、一つの机に一人づゝ大人のゐる事によつてその一寸した心持でする分面白く子供が遊ぶ事が出来た。

お砂場で、三角の積木や四角の積木の上に砂をのせ、ふじの花を拾つてのせたりして、お菓子屋さんごっこをしてしばらく遊んだが、短い土曜日はすぐにお歸りの時間になつてしまつた。子供の歸つた後、澤山出来たお魚に糸をつけて水族館の中につるして見る。



四月の一週間

附屬幼稚園
杉山 米子

之は年長組になつてからの最初の一週間の記録である。し度い事、させ度い事澤山あり乍ら斯うして一週間振返つて見ると矢張り心残りだ。其代り次の日に對する希望は又ひとしほである。此週は比較的外で過した時間が多かつた。暖かい春を満喫させ度い爲に。随つて繼續保育の主題であるお飯事の家の完成も豫定程はかどらなかつた。然し大きな組となつた自覺と自重は此の週の大きな收穫だつた。

四月十一日

今日から年長組としての第一週が初まる。子供は勿論、私もみんなにか張切つて待ち設けた今日であるのに、春に

しては強過ぎる心無しの雨が、遠慮もなくお庭の櫻の花を叩いて居る。

早く來られたa子さんに御本を讀んで上げて居るミ、お部屋の外でQさんのお母様のお聲がする。「ほらね、海の組は海だからお魚やお舟の繪なのよ」保育室入口の廻轉窓のガラス繪の事である。優しいお聲を伺ひ乍ら本當に和やかな氣がして來る。先學期は御病氣で一日も來られなかつたQさんが少しも含差まないで元氣よく「お早やう」云ひ乍ら入つて來られた。雨の中をこんなに早く御自身連れて來て下さつたお母様のお心遣ひも有難い。だん／＼御本の廻

りが賑かになる。小さいFさんが来られる。Bさんが自分の場所を立つて「Fちゃん、こっちの方がよく見えるよ。」云ふ。Fさんは素直に其の場所に坐る。實に可愛らしい。

大分來揃つた頃、今日はお帳面でなく畫用紙に、用意しておいた畫用紙に自分で春休みに摘草に行つた時の繪を描き初めた。目の早いX子さんが「先生、何していらつしやるの?」と寄つて来る。女の方が續いて集つて来る。「之ね、お休みの時先生が行つた所よ」「それ土筆んぼ?」「さう、かう云ふの澤山摘んだの、面白かつたのよ……ね、お休みの時R子さん何してお遊びになつたの?」「私高知のおばあちやまの所へ行つたの」「さう、よかつたのね、それ繪に描いてお話しして下らない?」「R子さんは物をも云はずにお道具箱を出しに飛んで行く、「先生私も描く」お帳面でないのが珍しいのか云ひ傳へ聞き傳へてだん／＼初めて來た。HさんQさんは二人とも遊びに行つた場所を描かうとして茶色で道順を描いて居る中に地圖が出來て仕舞つた。お休み中の材料が多いので皆すい分弾んで居る。出來上つたお繪描きに就いてのめい／＼の説明の面白い事!!、子供つて何

面白い事を考へて居るのかしら。今更乍ら感心させられる。

お仕事が済んでもお外へ出られない。お廊下を走らないで云ふのも可哀さうな位皆力を持ちあつて居る。お部屋のお机を片寄せて遊ぶ事にする。T子さんW子さん達は、未だ仕上げの済まないおまゝ事のお家で大いにお母様方の御挨拶の口眞似をして居る。上手な事／＼大人も及ばない位。早く此のお家のお窓のカーテンもかけ額も掲げてあげやう。男の方達も遊ぶ。一人の鬼が部屋の一隅で後向きになつて目を閉じて居る。後から、大勢の子供が鬼に見付からない様に足音を忍ばせて近付き鬼の背中を叩いた人が次の鬼になる。鬼は其の間で時々後を振り返つて歩いた様子の見える人を名指し、名指された人は出發點に戻る。云ふお遊びをした。Jさんの面白い事／＼お角力さんが四股を踏む様な格好で歩いて行く。あんなに面白ければお外に出られない不平も感じないで済むだらうとホッとする。そつと抜けてお食事のお支度をする。大きな組になつた自尊心からか、お支度も少しも骨が折れない。お食事中のお

互ひ話も、順調に運んで行く。大きな組になつた事の嬉しさを泌み／＼感じた。お食後のお片付けを頼りてX子さんがお手傳して下さる。お手傳ひ好きの此のお子さんの希望を、そして優越感を、この程度迄満足させてよいのだらう？朝からのお約束でお遊戯をする。大喜びでまるで跳ねて居る様だ。「タンボボ」之は新しいお遊戯だが上の組の方達のなさつたのを、何時覺えたのかすぐ出来る様になる。a子さんは三月の終り迄スキップは出来なかつたのに今日は顔を眞赤にして確な歩調で出来る様になつたので吃驚する。お部屋に歸つてからお歸りのお支度、レーンコートも大抵一人で着られる。さよならをした頃は折悪しくひみしほの強い降り、寒くもなつた。病後のQさんが又お風邪でも引く大變だ。

四月十二日

昨日の雨は忘れた様な好いお天氣、快い暖かさ、早速お窓やドアをカラリと開ける。充分に水を吸つた土の美しい事。お天氣がよいので皆さんのいらつしやるのも早い。其の方達とお外へ出る。後からいらつしやる方が、お部屋に

誰も居ないでびつくりなさらないかしらと一寸氣に掛つたが其の心配も無用、綺麗なお庭に皆誘ひ出された様に、／＼躊躇なく出て來られる。お山に登る迄透ぼる様な銀杏の可愛い／＼若葉が澤山落ちて居る。「アッ タンボボ」Z子さんの聲に皆其方へ駆け寄る。雨で洗はれた爲か黄色の花もひしほ美しいタンボボ。マリエ2の最初の頁にタンボボがあるのを思ひ出した。此の春最初にタンボボを見付けた朝何を於ても今日はそれを塗り度い。其間お子さん達は熱心にタンボボを圍んでお話して居る。「之つぼみだよ、黄色くなくてもつぼみだよ」Dさんの學者ぶり成程小さな硬いつぼみが緑の苞の中で眠つて居るのだ。「昨日お拙卓へ入れた新しい塗繪の御帳面にもタンボボのお花あるのよ、之と同じお色つけませうか？」何と云ふつまらない事を云つたのだらうと自分で恥かしくなる。でも子供は塗繪が大好きなので大喜び、氣の早いお子さんはもう山を駆け降りて行く。Dさんが「先生、之をお部屋に持つて行つて見乍ら塗らなくちやア」それで後で又植へられる様に根こそ抜く。根が「お大根みたい、おま／＼ここにしたら？」とT子

さんの心が忽ち躍り出す。お部屋へ持つて歸つたタンボボを圍んで、此の花發見以來の數人が早速仔細らしく觀察しては塗つて行く。中央の葉脈が赤い事も皆見付ける。開け放たれたドアの外から此の様子を見て、二人三人さ入つて來てさつさ初める。タンボボ發見者達は得意さうに其の發見のてん末を後から來るお友達に話して居る。もう全然私の手等は要しない。……Y子さんはもう綺麗に塗つて持つて來る。此の方のは、之が皆と同じ色鉛筆かと思はれる程明るい鮮かな色で濃く塗るのがお得意。Bさんと共に變つた塗り方だ。Cさんのはさうも淡いし、筋の外迄塗り出す事もない代り、内輪々々塗る。大人し過ぎる性質の通り。Hさんが目立つてしつかりさ手早くなつた。丈夫になつたのさ正比例して居るのも愉快だ。Nさんは左手で初めたので一寸注意したら、すぐ右手になほしたが、又何時の間にか左手になつて居る。左ギッチは無理になほさず吃りになる事があるので、それが恐くて強ひても云へないがさうしたらいゝかしら？

十一時十分前お外の人達を呼んでラデオの前にお腰掛す

る。今日は内山憲堂先生の「玉ころがし」あの子供達の大好きな「大きな球のお話」である。囁聲の擬音が面白いらしく、皆聲を立てゝ笑ふ。よく知つて居るお話なのに「あゝ知つてる」さも云はずに聞き入る所、やつぱりお話さ話し方の力だと思ふ。終るさPさんが「先生お辨當未だ？」如何にもおながが空いた様に……「ぢや今大急ぎでお支度しますから待つてゝね」それじやア先刻の續きしやう！」さ鐵砲を擔いでお外へ……

お食事のお支度も出來てお外に聲を掛けやうさ外を見るさQさんが……以前はまるでお友達遊びの出來なかつたQさんが、今やGさんの鐵砲に打たれてバツタリさヂェスチエア宜しく倒れる所、あんなによく遊んで居るのに呼ぶのは惜しい様な氣がした。

お食事の時新しい實習科の方が四人來られてすぐ一緒にお辨當を召上つて下さる。お子さん方もすぐ慣れてお話を初める。「ね先生僕の名前教へて上げやうか、ね、Gつて云ふんだよ、先生のは？」さ社交家のGさん。

午後はV子さん達のお家、こつこは「今日はお天氣がよい

から公園に行きませう」とお人形さんの赤ちやんを抱いて
お外へ出て行かれる。男の方達はお滑り臺で汽車ゴッコが
初まつて居る。W子さんが恥かしさうに「……が欲しい
の」耳許で云ふ。「え？何が欲しいの？」何遍聞いても「あ
のね……」目的物を云はない。「もつゝ大きなお聲で仰言
つてごらんさい」云ふ「だつてね、悪い様なの」其の遠
慮深さに思はず笑へさうになる。でもやつゝ「あのね……
タ・ン・ボ・ボ・の・お・花」云ふ。先刻塗繪の後を又大切さう
に植へたのでお花を摘んではいけないと思つたらしい。折
角の初めてのタンボボをさるのは惜しいし外のお子さん達
の心も心配だつたが、餘り思ひ餘つた様に遠慮勝ちに云ふ
可愛らしさに、遂負けて「ちや大事にね」云つて仕舞つ
た。今日ほも一つ面白い事があつた。お歸りのお支度をし
乍ら「今日はお天氣でお外で遊べてよかつたわね 明日も
お天氣だこいゝわ」云ふU子さんが勢込んで云つた。
「大丈夫よ先生、今お父様が豫報掛りなの、だからお天氣に
してつて頼めばいゝわ」氣象臺技師をお父様に持つU子さ
んの末代迄もの名言である。

四月十三日

昨日よりいくらか寒い。もう少し暖かければ本校へ摘草に
行かうと思つて居たのに、之では少し難かしい。冬の間し
なかつたお粘土を久し振りにしやうご用意をして置く。R
子さんが「東郷元帥」云ふ御本を持つていらして讀んで
云はれる儘に、まわりの方ご御一緒に讀む。讀み終つて
から用意をしておいたお粘土の上のぬれ布を除る「やあ
お粘土！大好きなものだし、暫くぶりなので大變な騒ぎ、
歡聲をあげて板もお粘土も自分でさり揃へて初める。私も
一緒に作り初めるさ、皆が「先生ナニ？く？」聞いた
り態々立つて見に來たりする。何云ふ事だらう。私の闖
入によつてお子さんの製作態度を亂して仕舞つた。「さあ
何でせうね、出來たらお見せするわね、Nさん達のもお出
來になつたら見せてね」云ふ事でやつゝめいゝの所へ
歸る。もう皆お粘土を見た時既に充分の興味を感じて居た
のに、何も私がする必要はなかつたご自分の不用意さを心
から恥かしく思つた。Bさんが嬉しさうに一人言を云ひ乍
ら飛行機を作つて居る。やがて「先生！樫村機が出來たの」

ミ弾んだ聲をあげる。成程片方の翼は半分程で切れて居る。Eさんも樗村機、やつぱり時代の子供達だ。

今日のお粘土は結果としては餘りよいものは出来なかつたが。皆、此のお粘土をどうやつて楽しもう、ミ云つた様に嬉しさうに丸めたり捏ねたり、する分楽しさうだつた。久し振りで珍しい爲だらう、Mさん等一番初めから、誰も居なくなる迄一時間半も平面ミ立體ミ兩方の電車を作つて居た。

お晝の御用意をして居るミDさんが「先生もうすぐお辨當？」え、もうすぐ「餘り毎日お辨當の御催促なので可笑しくなる。Dさんは外の兵隊さん達を呼び集めて居る「チューシヨク、ヨーイ」チューシヨクの譯が判つたのかさうか手に手に鐵砲を持つた兵隊さんが飛び込んで来る。皆の顔の元氣さうな事！。

だからお食事も足りないのではないかと思ふ程早く済んで仕舞ふ。

午後は私がお飯事のお家の窓框を取付け乍らU子さんW子さんA子さん達が額の繪を描くのを見る。女の方は割合

さまさまつて遊んで居るので忽ち八人集る。でもT子さんミXさんは未だお外らしい。ふミ、何處かしら、ミ氣になつた時Xさんが泣いてO先生に連れて來て頂いた。T子さんミぶつかつて轉ばれたさか……ふミ氣になつた折も折なので餘計びつくりする。でもお手々も洗つて見るミ泥だけで怪我はなかつたのでホッとした。すぐ泣き止めたX子さん、早速額晝描きのお仲間入をする。お部屋扉口にT子さんが一人で立つて居るので「T子さんお描きにならない？」ミ聞いたら「いゝの」ミ云つて又お外へミび出して行く。ぶつかつたX子さんの事が心配でそつミ遠くから見居たのらしい。

描いて居る人達をそつミおいてお外に出る。さんくミ注ぐ春光の中で、積木で作つたタンクに乗つて敵陣突撃をして居るBさん達、黙々ミお砂場で積木電車を運轉して居るMさんCさん達、ふミ、つい此間何かで讀んだ、濫用されざる自由、ミ云ふ言葉を思ひ出して一人で嬉しくなつて仕舞つた。一時半のお歸りが恨めしく思へる程早く來て仕舞ふ。明日もお天氣ださよい。

四月十四日

今日は暖かい。Nさんがお家で摘んだパンチーミデージ
ーを持つて来て下さる。Oさんは甲斐々々しく傍からコッ
プを持つて來たり、それにお水を入れたりしてお手傳ひを
する。私にはこんなに人懐こい半面を見せるのに、さうし
てお友達と馴染まないのかしら。お外ではもう早速お積木
をお山の上に運んで居る。「昨日のつぎにしやうね」ミE
さんの大きな聲が響く。今朝はさう云ふ譯か三人のお母様
からさう云ふ小學校へ入れたらよいだらうか云ふ御相談
を受ける。御答より何より、もう小學校かしらと、こんな
にも可愛い、そして折角よく遊べる様になつたお子さん方
を奪はれる様な淋しさを感じて仕舞つた。「先生いらつしや
い。タンボボがあつたのよ、昨日より澤山々々咲いてるの」
ミZ子さんが飛んで來る。一昨日の朝見付けたのを覚えて
居て今朝も一人で探して居たのらしい。早速行つて見る。
今朝開いた許りらしい清らかな色に朝の光を一杯湛へて居
た。それから皆で今日もタンボボ探しが初まつた。一昨日は
あんなに少ししか咲いて居なかつたのに今日は方々で咲い

て居る。暫くお外で遊んでから小さい組の方にお遊戯をお
見せするので、森の組と川の組をお誘ひしてお遊戯室へ行
く。タンボボ、兵隊さん、チューリップ等をする。子供心に
も、小さいお友達が見ていらつしやる云ふ緊張からか一
生懸命である。スキップの時は一人が一人づゝ小さい方
のお手々を引いてして上げた。いつもは殆んど無頓著の様に
済まして仕舞ふFさん迄が、心持身體をかゝめてお友達
の足許に氣を付け乍ら一生懸命リズムに乗らうとして居る。
此の氣持丈でも何と尊い事だらう。お部屋に歸つて齒の検
査をして頂く。もう生え代りの初まつて居る方がずい分あ
る。T子さんがふいふ大聲で「先生、桃太郎のお話して頂
戴」する。他の方迄「お話々々」「桃太郎」ミ口々に云ふ。氣の
早い方はお椅子を持つて來る。もうそろそろ本校に行き度
い時間なのに……でも望まれるまゝに桃太郎のお伽噺をす
る。お話し乍ら、何と昔噺しの良い事よとつくづく思ふ。
第一此のお話等お子さんは何度聞いた事であらう、にも不
拘少しも倦きない所か引入れられる様に聞いて居た。

お話を終つてから、バスケット、ごさ、藥罐等を持つて

本校のグラウンドへ行く。「持たせてく」ミEさんAさんLさんの三人がござの巻いたのを抱へて爆彈三勇士だミ大喜び。他の方も替るく／＼に藥罐やござを持つ。八重櫻がほんの少し咲き初めた所、芝生の上にござを敷いて、バスケットを置いて近くで遊ぶ。土筆でも出て居ればいゝのに、ミ思ひ乍ら草を見て歩く。すぎなが澤山ある。都會の子供達は緑のものを見るのさへさんなにか嬉しい事なのだ。すぎなの袴の間で一度切つて又そつ／＼なげて置いて「何處つないだの？」ミ云ふお遊びをV子さんにして上げたら、あちらでもこちらでも盛にすぎな摘みが初まる。其中にたつた一本の土筆、「あら、つくしよ」ミ云ふミ「見せて」僕に頂戴「ミ忽ち手から手へ渡つて行く。もつ／＼あればいゝのに：ミJさんが「アッ キナ粉が出るよ」ミ如何にも驚いた聲を上げる。それで又一度離れかけた人達もJさんの所へ集る。キナ粉ミは又實に面白い。期せずして出來た觀察、キナ粉ミ云ふ名言の前には、他にも何も云ふ事無しで黙つて土筆を採がし續けて居た。Y子さんが「先生エーおなかゞベコ／＼よ」ミ云ふミ方々から眞に迫つた聲で同じ訴へが起

つた。先刻のござの所に戻るミDさんミPさんがもうベタタリミ坐つてお辨當の御用意をして居るので思はず笑つて仕舞ふ。召上れをしてから間もなく「もうなくなつター」ミ詠嘆したのもDさんだつた。普段よりもずつ／＼早く召上つて仕舞ふ方、又反對に何時迄もく／＼つて少し残つた御飯がお日様に當つて、お辨當箱に乾きついて仕舞つた方種々だつた。Bさんはお外で頂くのが嬉しくてか、一人でお燥ぎして一人でおしやべりして居た。お食後土筆のあるミ云ふ土手の方へ行つて見たが矢張り五六本しか見付からなかつた。それでも皆の何ミ喜んだ事、お話する聲迄がせい一ぱいの大聲を出してはづんで居る様だつた。都會の眞中で育つたQさんが「先生、匂ひをかげばちやんミ判るよ」ミのびる／＼を見付けて探つた。もつ／＼遊び度い心を残し乍ら一時二十分幼稚園に歸る。お歸りのお支度が出來ても未だ皆嬉しさうにお燥ぎして居るので、何だか此の儘彈んだ心ミ體で町の中へお歸しするのが怖い様な氣がして、お時間は少し遅れたが、子守歌をピアノで弾いて其間お目々をつぶつて居る事にした。曲が終つて目を開けて

「明るいく」ミ又嬉しさうに笑ふ。今日は何も彼も嬉しいのだ。誰も彼も上氣した頬をほてらせてお元氣にさよならをした。

四月十五日

昨夜來の暴風雨も風だけは未だ残り乍らもカラリミ晴れた。すっかり吹き拂はれた雲一つない空、黒く濕つた土を踏むのも嬉しい。今日は小さい組の十一時のお歸り迄、お土産を作つて差上げやうミ、早く來られたPさん達ミ相談して麥わらミ櫻の打抜キでおつなぎを作り初める。綺麗なのミ、まだ一度もした事のないお仕事で珍しいのミで、いらした方からぎんぐ作つて行く。一人で大抵二つ三つ、多い方は「六つ目だよ」ミ云ふ聲も聞える。小さい組に妹さんを持つEさんが「之ね、僕のK子ちゃん達に上げるのよ」ミお友達に説明して居る。少し離れた所では之もお土産の風車を作るグループが出来て居る。之はお材料を出して置いた丈であるが二度した事があるので指導無しで初めた自然發生のグループである。此の間にたつた二人だけ、おつなぎも風車作りもしなかつた人が居た。CさんミT子さ

ん。二人共何遍もお部屋を通つて皆のお仕事をして居る所見たのに自分からお仕事に入つて行く事はしなかつた。此の二人は度々斯う云ふ事がある。そして素直で呼べばすぐお仕事に取掛るのだが、それ丈に何ミかして口で呼ばないで自然にお仕事に溶け込む様にし度いと思ふ。

お外のお池では積木を浮べて觀艦式が初まつて居る。「之陸奥ミ長門」じや之三笠艦「駄目だよ、それ大きいから赤城がいゝよ」岸に添つて走り廻つて本當に面白さうだ。所がやがて運送船が出現して砂利を荷物ミして積み初めた。お水は揺れるし濁るし、お池中大革命、流れの下の方に居る鯉が嚇驚くらうミ見て居て氣が氣ではない、でもこんなに觀艦式にひたり切つて居るものを、さうやつて止めたらいゝだらう。水遊びのお池ミ、金魚や鯉のお宿ミ別ならいゝのに等ミ贅澤な事を考へて了ふ。鯉の方に行つて見るミ丁度逃げ遅れた鯉が一匹岩陰に隠れて居る。尾丈がヒラくミ見える。之は面白い。觀艦式の方を見るミ丁度Eさんが、お池の中をのぞき込んで居る私を不思議さうに見て居る目ミ會つた。私はミつさに手招した。「靜にね」ミ付け

加へた。Eさんは足音を忍ばせ乍らも素早くこんで来る。

勿論司令長官が馳け出して來たのだから幕僚は皆其の後に随つた。早速其の隠れ家の鯉を見せるに皆豫期以上の熱心さで見初めた。尾の方へ手を入れる、頭を出す、頭の方へ手を入れる、尾を出す、實に面白い、それでも素ばしこい鯉はいつか手をくぐつてスーッと逃げて仕舞つた。皆はのめる様にして鯉の行方を見送つて居る。「あゝ、あの橋の下にあんなに集つてゐるよ」「でも金魚の方が澤山居るね」「さもう観艦式は忘れたらしい。「鯉はね、びつくりして逃げたのよ、お魚はお水が動いたり、音がしたりするにすぐびつくりするのよ、だから先刻みたいに、お積木のお船が動き廻るに、お水は汚くなるし地震みたいにお水がゆれるから、金魚も鯉もびつくりするのよ……ね、あそこのお積木可哀さうだから出しませうよ」「もうすつかりお魚に興味の移つたEさん達、早速お水からお積木を引上げて居る。ホッとし乍ら、それでも今日は幸鯉の面白さがあつたので、不可ない「ミ云はずに観艦式を止めたからよかつたが又明日も明後日もするであらう観艦式をさうしたらよいだらうミ

それが氣掛りだ。いつそつミ善惡のはつきりした事なら氣が樂なのに……今日はMさんLさんOさん達大人しい人達許りで紙飛行機を飛ばして遊んで居る。その紙も先刻一緒に「飛行機にする紙頂戴」云つて來たのだ。自然に大人しい人達許りが相かたらつた所もなか／＼面白い。

お食事のお支度をし乍ら、女の方に毎日交替でお食事のお當番を作らうか此の二三日の思ひを又更めて繰返して見る。でも此の組の女のお子さんは割合にましやさん揃ひだからお當番等を定めて却つてコセ／＼したお世話焼になつても厭だと思ふ。もう少し様子を見てからにしよう。今日のお食事はお互話も丁度よい工合に運んだ。Qさんは筍の甘露を「僕之本當はきらひだけ」食べるの「云つて二口三口食べて」「やつぱりきらひだ」「困つた顔をして居る。可愛い事！。

お食事後昨夜來の風で本校の八重櫻が散つて居る事と思つてそれを拾ひに行く。綺麗な花がボタリ／＼花の形其の儘落ちて居る。綺麗なのを拾つた。春のお土産を手にく／＼持つてきよならをしたのは一時半を少し過ぎて居た。

四月十六日。

今日も嬉しいお天気。各お机に色紙の入った箱と新しいお糊、お糊つけの紙を揃へて置いておく。後はお子さんがお帳面とお道具箱を持つて来れば切紙が出来る。そして置いてお外へ出る。KさんDさんと一緒に禽舎をのぞく可愛いセキセイインコの卵が産み捨てられて居る。Kさんが拾つて行つて又温ため様よ」云ふ。早速拾つて綿によくくるんで硝子の飼育鉢を伏せて日向に出した。即席サンルームだ。此の孵化法は度々して一度も成功した事はないけれども、捨てゝある卵を見るにさうしないでは居られない。一度でも孵化したらこんなに嬉しい事だらう。お家を出る時から思つて来られたのか、Iさんは「先生お早やう」云ふなり「鬼ゴッコしやう」云ふ。そこでDさんEさんHさん達と初めた。暫くするに日光が強さして来て皆の影法師がはつきり見えるのでU子さんが提案して影ふみをする事になつた。もう暑い分暑い。草疲れる迄したので期せずして陣である櫻の木のまわりのベンチに集つて仕舞つた。少し休んでから「ちやッお部屋に入りませうか」云ふ

「鬼ゴッコに堪能した人達さつさ」お部屋に入る。其處には切紙の御用意がしてあるのだ。誰か一人が見付けて呉れゝばいいのに……と思つて居るPさんが「先生ハリエ？ 僕もして……」と聞く。正に計畫圖に當つて天にも昇る心地。Pさんは早速、裝甲自動車を作つて行く。一體何時考を纏めたのかと思ふ程！Pさんに同化されて二人三人と切紙に入つて来る。大人しいMさんが、お部屋に入つて来る。a子さんが後から「Mさんブランコへ行かない？」と誘ふ。するにあんなに大人しいMさんが「うん、後でね、先へ切紙するから……A子ちゃんしたの？」「まだ……あゝするく」二人一緒にお道具箱を取りに行つて初めた。今迄「厭々」云ふ事を云つた事のない様なMさんが見事a子さんのお誘ひを斷つて自分の考への方へ誘つて仕舞つた。本當に面白かつた。

お外を見るに此頃何處もなく元氣のないR子さんが夢中になつてお砂場でクリークを掘つて居る。エプロンとハンケチは、はねがかゝつて泥んこだつた。あんなに遊べるなら先づく安心。「お早やう」云ふX子さんが来られる。何時

も早いのに今日はさうしたのかしらと聞いて見たが黙つて居た。後から女中さんが「今朝は少しお咳がひどいのでお休みする様に申しましたがさうしても行くよ仰言つて……」

この事。女中さんが歸る之間もなくお咳を初めてきても苦しうだ。百日咳でもなさうだが懶さうなのでお熱を計つて見る。丁度七度、子供の七度なら大した熱でもない、黙つて長椅子に腰かけて居る。何時もは製作慾旺盛で卒先して初めるのに今日は皆のお仕事を黙つて見て居る所等、やつぱりさうかして居るのかも知れない。其の間にハリエの方はさうく進行して居たがS子さんJさんQさんGさんLさんの六人はお砂場で夢中で遊んで居て未だお仕事をしない。それでもし終つてお外へ出たa子さんが「ハリエよ」云つたらすぐ入つて來た。之で全部が濟む譯だ。

今日は土曜日なのでお歸りの時間が早い。Hさんは「今日はお辨當なのかなア一つまらないなア」だから土曜日つてきらいだ」と獨り言を云つて居る。冬の間次々とお風邪を引いて殆んど缺席だつたHさんがこんな事を云ふ様になつたと思ふと實に嬉しい。切紙で散らかつたお部屋を皆手分

けして片附けてからお歸りした。心配したX子さんも割合さお元氣に歸られたので安心した。

伊太利國際使節團の來校

五月十一日に、皆様新聞紙上で御承知の、イタリーの經濟使節團の、夫人令嬢の一行七人が本校を視察すべく來校されました。

幼稚園では、東京ローマ樞軸の何れの部分かのお役に立てば等想像しながら伊太利國旗を製作し、之を幼児一人々に持たせ、ツイバーツイバー（萬歳）と叫びながら、又實習科の生徒は、奥田良三先生御指導の下にファッショスト黨歌を合唱しながらお迎へをいたしました。

殊の外満足裡に視察を終へて歸られました事を聞き、企圖の報ひられた事をよろこんで居ります。



池と子供

附屬幼稚園 町田 行子

「アッ、ゐるよ〜。」

さいふ聲に、皆が一心に水の中を見つめる。橋の下には、金魚が十二、三匹集まつてゐる。入園式の翌日、幼稚園のすべてのものに未だなれない小さな子供達が、先づ見出した喜びは、この金魚であつた。

數日経つたある日、一人の子供が、ふき思ひついたらしく、

「幼稚園のお池には龜がゐらないのね。もうせん、僕のお家に入るたの。だけさもう居ない。死んぢやつたの。」

と言ふ。お池の鯉や、金魚を見て、自分の古いお友達の龜の子を思ひ出したのであらう。そのかめの、お家中で一番

可愛がつて呉れ、又、いぢめられもした、最も親しい友は、きつここの子供であつたに違ひない。

「お家にもお池があるの。金魚も鯉もゐる。」

「私のお家にも金魚ゐるのよ。」

等々、うれしさうな顔が並ぶ。

× × × ×

お池の水は、おまゝごこの御馳走にもなる。お藥罐、お土瓶、コーヒーポットや小さなお茶碗に一ぱいに入れては持つて行かれる。

又、バケツに満たされて運ばれては、お砂場の井戸まり、池まり、川まり。

× × × ×

此の流れは、お山の岩の間から湧き出で、芝山の間を流れて瀧となつて二段、三段。瀧壺には岩があり、水は二つに分れる。二つの流れが合した所は廣い海だ。そこでは屢々觀艦式が催される。積木の軍艦がずらり整列した所は實に偉容である。子供達は、涯しない海に軍艦旗をかゝげ、波を蹴つて堂々進む、我が軍艦々長、或は艦隊司令長官となつてゐるのであらう。小さな手で、さかまく怒濤を起し乍ら、軍艦は進む、進む。

「僕は陸奥だ。」

「僕のは出雲だよ。」

「これは赤城だ。」

或は戦闘艦、巡洋艦、あるひは驅逐艦、あるひは航空母艦なる。

古びた積木は三笠艦である。

「三笠は何時でも同じ所にあるんだね。」

「うん。さうだよ、だから、こゝに浮かせてをかう。」

三笠艦は岸邊の淺瀬に置かれる。

そして僕等の海軍の觀艦式は威風堂々に行はれて行く。

× × × ×

廣い海から一段、水の落ちた所は流れの幅が少し狭くなり、小さな橋が出来て居る。然し、この作られた橋よりも、子供の好きなのは、長い積木を三本位集めて向ふ岸へわたして、作つた橋である。その橋を何度か往つたり來たりする。

三本の積木が時には二本になり、時には一本にもなる。せまい一本橋の上に、「三人がお互につかまりあひ乍ら乗つて、大喜びなのは、小さな冒險をしてゐる樂しさであらう。

× × × ×

更に一段低くなる、靜かな流れである。一方の岸邊には芝の山や、若芽に萌ゆる柳のみぎりのかげをうつし、深い底には、眞青に澄んだ高い空がひろがる。

その碧さの中に、みんなであげた日の丸が、ハタ／＼風にひるがへり、日の光りに輝いて居る。

空にふはり浮んだ白い雲、サー／＼はいた様な淡い雲も姿をうつしてゐる。

その流れに、小さな子供達がラシャ紙のお舟を浮べる。ヒラ／＼散つて來る櫻の花びらをお客様にのせて……

時には、お山から取つて來た笹舟が浮べられる。そして

風に送られる笹舟レースに、小さな手を叩く。

× × × ×

流れの下の方には、橋がある。橋の下は非常に深くなつてゐて、鯉や金魚のお家になつてゐる。

子供は、鯉が、金魚が、可愛くてたまらない、好きで面白くてたまらないので、終にはつかみなくなる。追ひかけまはしてみなくなる。それをよく知つてゐて、あし音をきゝつけるま直ぐ、水が動き始めようものなら忽ち、金魚達は四、五匹つゝ列を作つて、暗い橋の下のお家に歸つて行つてしまふ。すばやい鯉はサーッ身をはるがへして、またゝく間に姿を消してしまふ。

所がある時、逃げおくれた鯉の一匹は、岸に沿つた石のトンネルに身をひそませた。が、幸か不幸か、あまり立派な體格の鯉は、トンネルの長さに餘つて、チョットばかり尾がはみ出されてしまつたのである。尾はすぐにめざこい子供達の眼に見つけ出された。

大喜びで早速手をつゝこんで、尾をギュッこつかまうとした途端、スッ尾は石かげにかくれて、トンネルの向ふ側の口から、ちよつと黒い頭が出る。今度は頭の方。ヌルッこさはつたかと思へばもう、頭は引込んで尾を出す。尾

にさはれば頭が出る。頭にさはれば尾が出る。これを何度繰返したであらう。

お池のまはりに重なり合つた顔は、嬉しさこ笑ひに溢れてゐる。その中に、隙を見出した鯉はスルリミトンネルを抜けて、終に逃がれ去つてしまつた。

あそこには、満足した様な可愛いゝ聲で。

「僕、尾にさはつたよ。」

× × × ×

子供達の歸つたあそこ、静かなお庭にひゞく水音にさそはれて、砂利をふみしめ乍ら足音をしのばせて行つてみるま、お池一面に浮んだ櫻の花片のたゞよふかげに、緋鯉や真鯉、小さな金魚が皆、お家から出て、悠々泳いでゐるのが見られる。何時までみてゐても、飽きる事がない。

今度、可愛いゝおたまじやくしもたくさん入れられたさうである。生憎の雨で未だ見に行かない。

晴れた日に、お庭へ出でのびゝ遊ぶ子供達が、お池の中に、尾をふつてチョロ／＼泳ぐおたまじやくしを見出した時、そんなに喜ぶ事であらうか。

新しくお仲間入りした可愛いゝお客様に、みんな歓迎ぶりを示すであらうか。

ナチス保姆養成の教案

多田鐵雄

(六)教育過程

(a)第一學年前期

第一學年前期は主として國家社會主義的教育目的による獨逸の少女としての全體的な自己理解に捧げられる。生徒が理論的に兒童の教育養護に向けられる以前に、生徒はその心情の奥所に於て自己を把握し、國家社會主義的世界觀から出發して協同體生活的な態度によつて自己を陶冶して行かねばならぬ。第一學年前期の主課題はそれ故に教育者自身の陶冶形成である。このこゝは國家社會主義的教育の最高原理の導入によつて、而も教科書からでなく、況んや教育學の歴史からではなく、むしろ、熱情的體驗へまでもたらされたる最近數十年の獨逸國民の歴史から出發することによつて行はれる。

第一帝國第二帝國の簡單なる一瞥の後に、一九一八年の崩壞、中間帝國の慘狀、アドルフ・ヒットラーによる國家社會主義運動及び獨逸國民解放の歴史が描述せらるべきである。國家社會主義運動の追體驗 *Nacherleben* から、黨綱領及び國家社會主義運動、ナチス黨とその組織構造、國家社會主義的に方向付けられたる家庭・新國家及びその教育的施設。二つの中樞的課目「教育學」「獨逸國民性」獨逸語が意義深く、又現教員團に適應して、この課題へ參與せねばならぬ。第一學年前期に於けるこの課目の他の使命は教材配分表に示されてゐる。體操、音樂、生物も亦この第一學年前期に於て生成中の教育者の人格形成、協同體形成に奉仕する。僚友隊生活又然り。生物學に於ては、國家社會主義的世界觀の核心の一つであ

る處の身心一致の肯定から出發して、成人の、特に少女及び婦人の健康學が展開せられる。又姿勢態度、身體養護、自然に適へる榮養の實際が基礎付けられ、實際的身體教育への横の連絡が造り出される。

第二段に又この第一學年前期は既に教育實際の現實への入門にも利用される(但し未だ個々に涉つての理論的基礎付けなしに)。幼稚園及び託重所に於ける模範的實際が初頭から一週に一日示される。兒童を視て覺える(ich Sehenlernen)の觀察、重要な教育的事象等が主要課題である。これに就いての手引は、幼稚園及び託重所の時間に行ふ。この手引は實習への入門を指導し、且つ監督する所の教員によりて授けられる。

(b) 第一學年後期

第一學年後期は就學前兒童及びその養護並びに教育を主眼とす。生理學、教育學、幼稚園學はこの際緊密に相關聯せしめねばならぬ。

又第一學年後期に於ては教育學の領域内に於て課せられてゐる「教育の歴史」もその原典講讀に際して初めは主として幼兒及び家庭教育に關してなされる。他の課目もこの學期に於ては出来るだけ幼兒への方向に於て聯關せしめられる。凡ての課目は幼稚園の本質と使命の理解に奉仕すべく統合する。

この第一學年後期に課せられたる割烹時間も特に幼年期に對する健全にして經濟的な榮養調理に捧げられるべきである。

(c) 第二學年前期

第二學年前期に於ては託重所、兒童畫間ハイムに於ける學童とその教育が前面に立つ。學童の身體的發達及び身體養護は既に第一學年後期に於て取上げられてゐる。今や、學童の心情的精神的發達の説明が従ふ。學童に對する家庭の義務

と共に、少青年聯盟 Jugendbund 及び學校による學童の指導が、託重所及び兒童畫間ハイムに於ける正しい教育のために必要なる限りは取扱はれる。保姆は學童に對するヒットラー少年團及び學校の影響を理解するやう教育され、且つ學校の效果（學業の監督によるのみでなく）及びヒットラー少年團の效果を援助するやう能力付けられねばならぬ。

「國民的兒童的作業科」に於てはこの學期に於ては特に學童のかゝる創造への指導力が養成される。又、學童の體育・體操・競技・身體抵抗力養成教育の重要性に就いての教授が遂行される。唱歌に於ては軍歌、少年國民歌が優先される。託重所學に於ては文獻及び當該年齡に對する文獻及び繪圖が用ひられる。

「獨逸國民性及び獨逸語」の課目群との横の聯絡はこの學期に於て特に重要であり、效果大である。現在及び過去に於ける民族的な態度に對する學童の理解度の成長、獨逸の少年少女、獨逸の男性女性の英雄的行爲に對する感激の深化、童話・傳説への没頭が教育實地に於ても教育學に於ても「獨逸國民性及び獨逸語」の科目に於ても、同様に又嚴しく分業的な計畫に従つて顧慮されるべきである。童話はたゞ幼年に對してのみ適するものゝなすユダヤ的・大都市的な偏見が根絶されるべきである。やゝ長じたる學童及び少青年に對しても適當する處の獨逸童話が澤山ある。保姆は、往時は凡ての年齢の者に共通に存してゐた處の國民童話を再び、少青年や又母親にも與へるべき大なる使命を持つ。

第二學年後期の生理學に於ては學童の自然科學的知識慾が論述され、その植物・動物の育成への指導が加へられる。毎週三時間の庭園工作、小動物養護の、この保姆に取つて最も重要な實習時間はこの學期の生物學授業を力強く補足すべきである。更にこの學期の生物學授業は生徒が國民學校、高等學校終了後著しく成長せる知識に適應せしめて國家社會主義的民族學、遺傳學を理解深化せしむべきである。但し遺傳學の科學的基礎付けは除外されるべきである。

(d) 第二學年後期

この最終學期は幼兒、學童に對する研究の深化ミ、又母親・兩親・又一般に兒童の家庭への直接間接の奉仕ミに向けられ、加之保姆の國民性涵養、國民性勞作へまで進む。大凡そ、この最終學期の教案中の凡ては保姆たるべき者の高度なる國民教育的使命を目標ミする。作業科・唱歌・器樂・獨逸語讀材は、母の會、兩親の會へ關聯せしめる。慣習、行事の學、國民舞踊、ナチスの民族的詩作は國民的祝祭の形成に奉仕する。第二學年前期の民族學、遺傳學、生物學はこの最終學期に於て國家社會主義的國民政策へまで統括され、保姆をして母及び兩親との聯絡によつて國家社會主義的なる運動及び國家を全力を以て、しかも注意深く援助し、且つ又民族養護ミ人口政策の根本思想を國民の感情ミ行爲に於て益々徹底せしむることを能力付ける。

これミ關聯して亦、第二學年後期の教育學は兩親に對する、特に母に對する勞作、即ち母親教育・母親訓練・母親養護に於ける保姆の關與ミ使命について力を入れる。託董所、兒童畫間ハイム、幼稚園が民族純粹的獨逸的思考ミ禮節ミの國家的苗床ミして、又國家社會主義的民族的の溫床ミして益々明確に生徒の眼に映する。

教育學は少青年福祉の歴史、幼稚園ミ託董所勞作がナチスの少青年援助及び國民福祉の組織の一部ミなつた歴史の概觀を以てその頂點ミする。

(七)二ヶ學年各學期に對する時間配當表

	一學年				二學年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1、體育(第一學年後期、第二學年後期は運動的遊戲の一時間も含めて)	3	2	4	2	4	2	4	2
2、音樂(唱歌と器樂)	4	2	4	2	4	2	4	2
3、國民學(獨逸國民性と獨逸語)								
4、生物學(健康學、民族學、遺傳學、國民政策)								

5、教育學(精神學及び教育史を含む)	2	6	5
6、國民的兒童的作業科(作業、裁縫、圖畫)	4	8	5
7、幼稚園學、託童所學(所謂職業知識、從來の所謂職業學、少青年讀物學を含む)	5	9	4
	4	8	4
8、附加的實習時間	1	24	
9、幼稚園、託童所實習	4	29	
第一學年前期……………每週連續二日	3	30	
第一學年後期……………聯絡的に四週間		28	
第二學年前期……………聯絡的に四週間、更に出來れば他處の全日ハイムで三週間乃至四週間。			
第二學年後期……………聯絡的に四週間			

(八)上記の全時間表の説明

土	金	木	水	火	月	
						ヤハ
						八
						九
						十
						十一
						十二
						一
						二
						三
						四
						五
						六

體育の時間數は普通よりも多い。國家社會主義的人格形成に於ける體育の最優位がこれを要求する。生徒協同體の嚴格な形成のために體育は代へ難く大切である。

國民政策的授業は普通の如く科目としては登場せぬ。なんとなれば民族的政治的方向付けは凡ゆる授業の、又保姆の凡ての教育の自明なる原理である故である。

同一のことが民族學にも妥當する。民族學は決してそれが生物學の領域に於て登場することを以て済むものでなく、民族學は全科目に對する方向付けを規定する。同様に國民性涵養の國民性勞作は凡ての陶冶の原理である。

幼稚園學及び託童所學は一般に兒童の實際取扱ひと同じく第一學年前期に於ては未だ行はぬ。なんまなれば、先づ生徒自身を準備することが必要である。價值を兒童に更に與へることを生徒が學ぶ前に生徒自身がこの價值から心打たれてあらねばならぬ。但し第一學年前期は將來の教育の實際に對する最初の直觀的概觀を生徒に與へることに用ひられる。この指導としては週二時間で充分である。

(九) 教育實習(幼稚園、託童所に於ける奉仕)

自明の如く生徒は將來その職業に於て、彼等が教育を受けつゝあつた時に見た處の模範に向つて撓むことなく努力して行くやうに、先づ模範的な幼稚園、託童所、ハイムの實際に習熟せしめられねばならぬ。その一方、生徒は實際の教育現實を、その與へられたる又屢々克服し難き缺點(例へば部屋の狹隘、兒童數過多、ハイムの環境の不良、庭園の缺除等)に就いても、後日かゝる困難に對して尻込みせぬやうに、教育を受けてゐる期間中に知つてしまはねばならぬ。

模範的な幼稚園及託童所は「營業的施設 Anstalt eines Betriebs」の性質を出来るだけ持つてはならぬ。むしろ、家庭的 Familienartig であるべきである。なんまなれば幼稚園、託童所は家庭の教育を補足し、又必要な限り、又出来るだけ家庭を援助して行くべきだからである。兒童の身體的養護、抵抗力増進、強健化こそ模範幼稚園の主要使命である。凡ての教育、幼稚園、託童所、特に兒童晝間ハイムの家事、家政は母親達に對して教育的經濟的模範であらねばならぬ。模範的な幼稚園は、それが兩親への影響効果によつて、獨逸の家庭の國家社會主義的健全化、禮節化によつて有能化を招來することを、實例を以て示し、證明すべきである。

屢々替る又充分に教育されざる生徒の介入が兒童畫間ハイムの家庭的協同生活を著しく妨げることは衆知のこゝであるから次のこゝが要される。即ち、生徒はその教育の始めには目立たざるやう、又出来るだけ計畫的な觀察に限定すべきである。又このこゝは實習の前に豫め根本的に準備され、更に實習後にも充分に吟味しつゝされるべきである。漸進的に生徒は實地的奉仕に參與せしめられる。第一學年前期の終に生徒は幼稚園生活協同體へ組入れられる。第一學年後期からは生徒は連續的實習によつて兒童畫間ハイムの協同體へ益々緊密に組入れられる。

數週へつゞめられた連續的實習を、全學期へ分割される實習の長短は長く論争されて來た問題であるが、これは次のやうに決定される。第一學年前期に對しては二日續きづゝの分割實習が要求され、他の三ヶ學期に對しては連續的實習が切實に希望される。この方法を以てすれば、生徒が最初から實習に對する希望せる進路を、然も授業に對する常に充分なる準備の下に歩むこゝが出来ゐる。毎週二時間の幼稚園學、託兒所學は第一學年前期に於て、その次に二日宛續く參觀を關聯して教育實習の入門コースを形成する。このコースは生徒を極く簡單な最も重要な教育實習の事實を諸規定に習熟せしめ、又直接的印象的な模範を示す。第一學年後期に於ては出来るだけ種々の兒童畫間ハイムで參觀し、且つ實習する。例へば都心地、郊外地、又は特に農村に於て。都會地に在る養成所の生徒に取つて農村は正にゆるがせにすべからざるものである。第二學年前期に於ては、都會にある保姆學校は少くとも實習の七―八週間を農村に移さねばならぬ。即ち常設農村幼稚園、收穫時幼稚園、農村全日ハイムへ。

第二學年の生物學の領域内で與へられる處の實際上の幼兒養護の指針は、乳兒託兒所、幼兒ハイム又はクリッペの參觀によつて補足されるべきである。少くとも六週間の出来るだけ多方面でのこれらの施設での實習が保姆養成教育の前乃至後に於て實行されるべきである。施設又は家庭に保姆として任命されるには乳兒及び幼兒の養護に於けるかゝる講習が前

提されるべきである。

(十) 教育の各學期に對する教材配分表

次の表は最も中心的な教材及び使命のみを掲げたものである。副次的なもの、又自明的に重要なものは省略した。各學期に於て、教材及び教育の有機的統一への各科目の合一こそが特別の價值を持つ。それに對應して各學期に於て全教育の太なる使命の一つ宛が前面に立つ。

即ち

第一學年前期 保姆としての自己陶冶

第一學年後期 幼稚園に於ける教育

第二學年前期 託童所に於ける教育

第二學年後期 家庭及び國民への保姆の教育的貢獻

(A) 各學期を通じて

體 育

健全なる生活形成の意志覺醒。團體的個人的行動の最善を期し、且つ模範的態度及び運動の遂行を期し、各種の身體訓練に於て肉體的能力を強化すること。青年的運動、遊戲、競技に對する興味の保持及び強化。

運動、競技、試合を通して、又國民舞蹈を通しての生徒協同體の形成。

音樂(唱歌、樂器)

個人的並びに團體的發聲練習、音感教育。兒童の聲音の本質及びその取扱ひ方。樂器の必修教授。樂器の選擇としてはヴァイオリン、フリュート、ギター、ピアノの順で行はれる。

國民學(獨逸國民性)獨逸語

獨逸語

- (a) 語學的基礎文法と基礎練習。正字法。外來語書法。句讀點の基礎規則。
詩及び散文の朗讀。方言の研究。
- (c) 談話法。
- (d) 文語法。
- (b) 口語法習得。發音、抑揚。

(B) 第一學年前期

體育

第一學年前期の仕事は全四學期に妥當する一般的課題に捧げらる。

音樂

生徒協同體のための教材の選擇。運動、勞働、日課、四季の唱歌、旅行、祝祭の歌。ダンスと娛樂の歌。國民歌の歴史大觀。

獨逸學

獨逸國民の血族的地方的歷史的構成、緊急なる原始史的前史的基礎も含めて。ナチスの歴史理解の觀點よりの第一帝國及び第二帝國の根本特徴。

ナチス黨綱領「1、內政及外政。2、經濟政策、ナチス勞働思想、ナチス職業觀。3 第三帝國の文化政策。總統國家の構成。ナチスの立法。——之に加ふるにヒットラー著の「我が闘争」及びヒットラー演說集の共同讀書、家庭での讀習。」
獨逸國民の新體形。國民性涵養と國民性的勞作。

古代北方文化の實狀。北方神話ニ北方宗教、北方諺言。北歐神話傳説集エツダ。

讀書〔獨逸文學に於けるナチス運動の闘争及び歴史、例へばワルター・フレックス、ハンス・ヨースト（シユラゲーター）、オイリンゲル。

生物學

成人の衛生學。身體養護、衣服、榮養、生活法。（體育及び教育學並びに獨逸人の政治的義務との連絡）

教育學

獨逸歴史、世界大戰、一九一八年の崩壞、中間帝國の歴史の教育的把握。ナチス運動の教育的力を基として教育學。

黨及其の組織による教育。國家、軍隊、學校による教育。運動及國家により強化され健全化されたる家庭に於ける教育。

ナチス教育學（教育、陶冶、民族、共同體、扈從隊、人格、自由、拘束、態度、訓育、民族的義務）

從來の心理學に於ける非獨逸的なるもの。民族心理學の大綱。

ナチス的日刊新聞、特にフェルキツシエル・ベオプアハテルの閱讀の手引。

作業科

第一學年前期の勞作は全四期に妥當する共通の課題に捧げられる。（後述参照）

幼稚園學、託重所學（二時間）

幼稚園、託重所の實際への入門。幼稚園及託重所に於ける參觀に際して外面的には抑制されてゐるが、内面的には甚だ活潑にして計畫立つた觀察をなすやうに手引すること。後には幼稚園生活、託重所生活へ入る手引。種々の他の教育施設及び福祉施設概観。

(C) 第一學年後期

體育

幼兒の運動生活の觀察。幼兒の自然的運動慾を結付けての運動形成。就學前兒童の體操と運動的遊戲。四季の遊び。簡單な勇猛心養成練習。音樂及び國民學との連絡を計ること。

音樂

第一學年前期と同じ。その他に童謠、遊び歌、極く簡單な國民歌。幼兒のリズム及び音樂に對する興味の覺醒と涵養。その際幼兒の音樂的發達を才能を計畫立つて注視し、且つ體操と連絡を取る。

國民學

獨逸の家庭の内容を使命の變遷。都會に於ける又農村に於ける又種々の職業階層に於ける家庭の機能。獨逸文學及び美術に現はれたる家庭と幼兒。

獨逸國民學(詳細に)〔由來、内容、成人及び兒童に對する價值、グリム兄弟〕

四季の行事及びその意義。再興及び新形成の可能性。國民的祝祭とその形體。

讀書〔氷州のザガ物語(氷州の婦人の實際に兒童教育を書けるもの)、教育の歴史との連絡。グリム童話。リール著の及びホルスト・ベッケルの著の「家庭」〕

生物學

兒童の肉體的發達と幼兒、學童、青年の衛生學。特に幼兒の養護及び兒童の疾病の認識に對する手引。

教育學

獨逸的教育の目標から又協同體に個人の民族性的陶冶の理想から、又同時に現在の生活の教育的威力から家庭及び幼稚園に於ける幼兒の教育に對する方向が獲得される。

幼兒の心情的發展。兒童性格に性格教育。

家庭的な幼稚園。幼稚園の團體生活とその日々行事。獨逸教育史中よりの現代に重要なものゝ簡潔なる拔萃〔古代ゲルマン教育。獨逸騎士道。獨逸人としてのフッテン及びルーテル。教育者としてのフリドリッヒ大王。家庭教育者、貧民教育者、村の教育者としてのベスタロッツ。民族教育者としてのファイヒテ、アルント、ヤーン。獨逸の兒童心情的發見者としての、幼稚園創設者としてのフレーベル。ナチスの幼稚園〕

讀書〔ハンス、シェンムは語る〕クリーク選集〕

作業科

幼兒の製作の計畫立つての觀察。兒童に固有なる遊戲方法及び製作方法、殊に兒童の圖畫。兒童に固有なる手仕事。

兒童のための玩具及びその他の使用品の製作。

幼稚園學、託童所學。

(三時間)幼稚園の施設、組織、經營。玩具及恩物の知識。幼稚園に於ける日課の組織。他の教育施設及福祉施設の參觀。
(一時間)童謡、繪本學、朗讀及び物語、童話の正しい話し方。

(D)第二學年前期

體育

學童の運動生活の觀察。學童の試合、競走、熟練遊戲。簡易なる國民舞蹈。學校の體操教授の教授法及び活動方法。音樂及び國民學との連絡。

音樂

第一學年前期、後期と同じ。その他に、學童向きの民謠。行進歌、遠足歌。ヒットラー少年團歌、少女團歌。俗歌排除と兒童の發聲法。正確なる發音の練習。

國民學

獨逸的勞働と獨逸藝術による獨逸の都市及び農村の固有性の把握。獨逸歴史及び獨逸藝術の著名なる作品。新國家による獨逸の土地の新形成。軍隊、艦隊、飛行機、現代の工業上の業績。獨逸の嘶への引續いての深化。英雄傳、國民文庫。兒童讀物の研究。

生物學

民族學、遺傳學。(理論倒れを警戒すべし)

日常の動植物學。特に兒童の科學慾を顧慮して。

幼稚園實習の庭園工作、小動物飼養と連絡せしむること。

教育學

學校、少年團、家庭、託童所等の教育と學童の心情發達。家庭的なナチス的な託童所。學童性格とその教育。民族心理學の深化。北方民族心理。

讀書(ヘールトの學年の教育と陶冶。クローの基礎學校、上級(小學校)の心理學)

作業科

幾分複雑なる製作。特に農村兒童を顧慮しての兒童の生活の中の遊びと勞作。家庭、幼稚園、託重所に於ける祝祭に際しての、又國民性涵養に資し得べき製作。

幼稚園學、託重所學

(三時間) 託重所、兒童畫間ハイム等の施設、組織、經營。教育的施設内に於ける家政と經濟。玩具、遊具、教具。學校教科の監督の手引

(二時間) 稍々年長の兒童に對する童話、歴史の正しき話し方。言語と繪に於ける正俗の比較

(E) 第二學年後期

體育

第一學年後期、第三學年前期のものゝ繼續及び深化。その他に、母のための國民性的運動遊戲。母性體操。稍々複雑なる國民舞踊。國民歌と衣服學、行事學との關係。

音樂

第二學年前期までと同じ。その他に、母の會、兩親の會、祝祭のための國民歌その他の歌謠。歡迎歌。農村文化、外國獨逸性に對する國民歌の意義。國民歌の藝術的歌との關係。

國民學

ゲルマン初期からナチス婦人聯盟に至るまでの獨逸の女性の位地。所謂婦人運動の理由と克服。

第三帝國に於ける女性と母性の使命。獨逸の女性に對する總統の演説。

國外獨逸性。奧國に於ける獨逸性。移民と殖民地の問題。民族的政治的國民性文學、勞働者文學。

古典獨逸文學よりの二三の實例。ゲーテのフアウストに於ける享樂から國民政治的行爲へまでの發展。

生物學

ナチスの人口政策。國民教育的課題との連絡。

教育學

勞働と遊戲、道德と慣習、祝祭、藝術と宗教による協同體教育。

母性陶冶と母性教育の根本問題。

青少年福祉のナチス青年救済、國民福祉までの歴史。

讀書(フレーベルの幼稚園に關する文獻。教育雜誌、特に雜誌「幼稚園」

作業科

幼稚園、託重所等の展覽會出品製作。國民協同體奉仕用の製作。母の會のための婦人向諸製作。祝祭のための特に演劇

會用の諸製作。

幼稚園學、託重所學

(二時間)兩親との交際、家庭訪問、母の會、區役所との交渉等の實際的指導。簿記の初歩。自己陶冶。保母の服務規定。

(二時間)母の會、演劇會のための文獻、物語、童話、國民文庫、兒童青少年讀物等。

(以上)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

冊分	金參拾五錢	特等面	頁二面	面一頁
一ヶ月分	冊送金壹錢	廣	金貳拾圓	金拾圓
半ヶ月分	冊送金貳圓拾錢	廣	金貳拾圓	金拾圓
六ヶ月分	冊送金貳圓拾錢	廣	金貳拾圓	金拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	廣	金貳拾圓	金拾圓	金拾圓

(外國行郵税ハ一部金拾貳錢ノ割ニテ御拂込下さい)

昭和十三年五月十三日印刷納本
昭和十三年五月十五日發行

幼兒の教育 第三十八卷 第五號

不許複製 轉載

編輯者 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內 倉橋 惣三
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 柴山 則常
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 會社 杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會 振替口座東京一七二六六番

注文規定

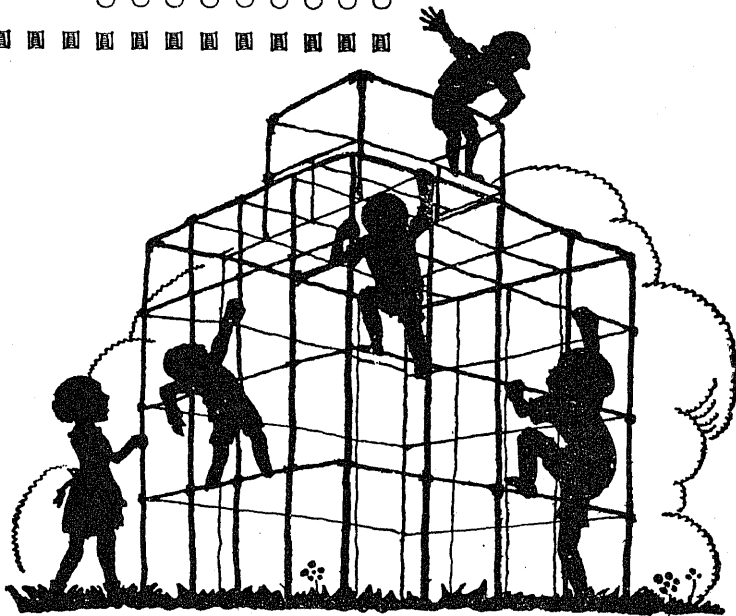
一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。
一、御送金の場合には振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたい。
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雑誌の帶封に前金切の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
一、本誌は早本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

新しい御豫算の下の御施設は

一應弊館に御相談下さいませ。非常時局の下に、且つは第二國民體育向上の意識下に最も合理的に恒久的設備を經濟的に且つ迅速にお見積して差上げます。その設計施工に於ては過去三十年の経験によつて必ず御満足を得ることを確信いたします。

- ◇鐵製廻轉滑臺
- ◇コンビネーション梯登
- ◇遊 動 橋
- ◇實用新案パイプ滑臺(新發賣)
- ◇杵 の ぼ り
- ◇コンビネーション運動具
- ◇波 動 廻 轉 塔
- ◇鐵製椅子ぶらんこ
- ◇大型鐵製滑臺
- ◇大型二十人乗シーソー
- ◇鐵製二人乗ぶらんこ
- ◇太 鼓 梯 子
- ◇スモールセツト

二	六	六	八	一	一	一	一	一	二	二	六
五	五	五	五	一	一	二	四	七	八	〇	〇
圓	圓	圓	圓	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓



株式會社 レーベール館食

本社 東京 神田 二丁目 電話(33) 六六二番
 出張所 大阪 區東 五丁目 電話(24) 八三九番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回) 同十五日發行

昭和十三年五月十五日印刷
 昭和十三年五月十五日發行

定價 三十五錢